



## 下水道モニター 平成26年度第2回アンケート結果

東京都下水道局では、様々な事業を行なっています。

第2回アンケートでは、東京都下水道局が現在までに実施した浸水対策の認知度、要望及び評価、感想などをうかがいました。この報告書は、その結果をまとめたものです。

- ◆実施期間 平成25年6月27日（金）～7月13日（日）17日間
- ◆対象者 東京都下水道局「平成26年度下水道モニター」  
※東京都在住20歳以上の男女個人
- ◆回答者数 563名
- ◆調査方法 ウェブ形式による自記式アンケート

### 【目次】

- I 結果の概要
- II 回答者属性
- III 集計結果
- 1. 『浸水対策』について
- 2. 家庭での浸水への対策について

# I 結果の概要

## 1. 『下水道の浸水対策』について 7～25 頁

### ■ 【下水道の浸水対策についての認識度】

- (全体) 「下水道の浸水対策」の認識度について、内容を知っている(内容や意味を十分に知っている+内容や意味を少し知っている)と回答したもので、 「3.雨水調整池の整備」が51%と最も高く、次いで「1.雨水幹線の整備」「8.浸水予想区域図の公表」が46%、「9.地下室・半地下室における注意喚起」が41%となっており、「5.枝線の増径」が18%と最も低い結果となった。
- (性別) 内容を知っている(内容や意味を十分に知っている+内容や意味を少し知っている)と回答したもので、男性は「3.雨水調整池の整備」が62%と最も高く、女性は「8.浸水予想区域図の公表」が44%と最も高い結果となった。
- (年代別) 20歳代と40歳代では「8.浸水予想区域図の公表」が最も高く、それぞれ20歳代が53%、40歳代が39%、50歳代と60歳代では「3.雨水貯水池の整備」が最も高く、それぞれ50歳代が55%、60歳代が71%となっており、70歳以上では「1.雨水幹線の整備」が63%と最も高い結果であった。30歳代では「3.雨水貯水池の整備」と「8.浸水予想区域図の公表」が39%で同ポイントであった。
- (地域別) 23区は「3.雨水調整池の整備」が52%と最も高く、多摩地区は「7.雨水浸透ますの設置」が51%と最も高くなっている。

### ■ 【下水道の浸水対策のイメージと具体策についての理解度】

- (全体) 「下水道の浸水対策のイメージと具体策」の理解度について、内容を理解できた(良く理解できた+まあ理解できた)と回答したもので、 「1.雨水幹線の整備」が93%と最も高く、次いで「2.ポンプ所の能力増強」「3.雨水調整池の整備」が91%の同ポイント、「9.地下室・半地下室における注意喚起」が85%となっており最も低い結果となった。
- (性別) 内容を理解できた(よく理解できた+まあ理解できた)と回答したもので、男性は「1.雨水幹線の整備」が95%と最も高く、女性も「1.雨水幹線の整備」が90%と最も高い結果となった。
- (年代別) 20歳代では「8.浸水予想区域図の公表」が最も高く、95%、30歳代では「2.ポンプ所の能力増強」、40歳代から70歳代までは「1.雨水幹線の整備」が最も高く、それぞれ40歳代が94%、50歳代が96%、60歳代が93%、70歳以上では97%となった。また40歳代では「6.補助管やバイパス管の整備」も94%と最も高く、60歳代では「2.ポンプ所の能力増強」「3.雨水貯水池の整備」も93%、70歳以上では「2.ポンプ所の能力増強」も97%と最も高い結果となった。
- (地域別) 23区は「1.雨水幹線の整備」が93%と最も高く、多摩地区は「1.雨水幹線の整備」「2.ポンプ所の能力増強」が91%と最も高くなっている。

■ 【下水道の浸水対策のイメージと具体策についての評価】

（全体）「下水道の浸水対策のイメージと具体策」の理解度について、内容を理解できた（良く理解できた+まあ理解できた）と回答したものでは、「1.雨水幹線の整備」が93%と最も高く、次いで「2.ポンプ所の能力増強」「3.雨水調整池の整備」が91%の同ポイント、「9.地下室・半地下室における注意喚起」が85%となっており最も低い結果となった。

（性別）男性は「3.雨水調整池の整備」が96%と最も高く、女性は「1.排水幹線の整備」が95%と最も高くなっている。

（年代別）20歳代と40歳代を除いた年代では「1.雨水幹線の整備」が最も高く、それぞれ30歳代と60歳代が95%、50歳代と70歳以上が97%となった。20歳代では「6.増補管やバイパス管の整備」が98%、40歳代では「3.雨水調整池の整備」「4.貯留管の整備」が95%と最も高くなった。また、50歳代では「3.雨水調整池の整備」、60歳代では「2.ポンプ所の能力増強」「3.雨水調整池の整備」もそれぞれ50歳代では97%、60歳代では95%と「1.雨水幹線の整備」と同じく最も高くなった。

（地域別）23区と多摩地区は同じく「1.排水幹線の整備」がそれぞれ95%、と最も高くなっており、23区では「3.雨水調整池の整備」も同ポイントとなっている。

■ 【下水道の浸水対策イメージと具体策についての意見】

（全体）「下水道の浸水対策のイメージと具体策」の意見について、「非常にそう思う」が全体の60%と最も高くなった。ついで、「ややそう思う」が33%となり、合わせて93%はそう思うという結果となった。

（年代別）男性では「非常にそう思う」は60%、女性では59%となり、男性が1ポイント高い結果となった。年代別では、「非常にそう思う」は年代があがるにつれ高くなり、20歳代では44%、70歳以上では73%となり29ポイント高い結果となった。

（地域別）23区部では59%、多摩地区では60%となり、多摩地区が1ポイント高い結果となった。

■ 【豪雨対策下水道緊急プランへの認知度】

（全体）「豪雨対策下水道緊急プラン」への認知度については、「知っていた」は全体で9%となり「知らなかった」は91%となった。

（性別）男性では「知っていた」は12%、女性では5%と低かった。

（年代別）年代別では、「知らなかった」は20歳代では0%、30歳代では5%、40歳代では6%、50歳代では9%、60歳代と70歳以上では同じく18%の結果となった。

（地域別）地域別でみると、23区では、「知っていた」は10%、多摩地区では7%、その他地域では17%の結果となった。

■ 【豪雨対策下水道緊急プランへの理解度】

（全体）「豪雨対策下水道緊急プラン」への認知度については、理解できた（とても理解できた+やや理解できた）は全体で80%となり、理解できなかった（あまり理解できなかった+まったく理解できなかった）で8%となった。

（性別）男性では83%、女性では78%となり、男性が5ポイント高い結果となった。

（年代別）40歳代が89%と最も高く、30歳代と60歳代では87%、20歳代では73%と最も低い結果となった。

（地域別）23区、多摩地区ともに86%と同ポイントとなった。

■ 【豪雨対策下水道緊急プランへの期待度】

- (全体) 「豪雨対策下水道緊急プラン」への期待度について、有効である(極めて有効である+やや有効である)と回答したものは、全体では86%、
- (性別) 男性では89%、女性では84%と高い結果となった。
- (年代別) 40歳代が89%と最も高く、30歳代と60歳代では87%、20歳代では73%と最も低い結果となった。
- (地域別) 23区、多摩地区ともに86%と同ポイントとなった。

## 2. 家庭での浸水への対策 26～46頁

■ 【「浸水対策強化月間」の認知度】

- (全体) 浸水対策強化月間の認知度については、「内容や意味を知っている」が4%、「少しは内容や意味を知っている」が15%、「言葉を聞いたことがある程度」が24%となっており、全体で43%となっている。
- (性別) 「内容や意味を知っている」「少しは内容や意味を知っている」「言葉を聞いたことがある程度」の合計は、男性が48%、女性が37%であり、男性の方が11ポイント高かった。
- (年代別) 20歳代、30歳代と50歳代を除いた年代では年齢が高くなるほど認知度が高まる傾向が顕著であり、最も多い70歳以上の66%に対して、30歳代は28%と38ポイント低かった。
- (地域別) 地域別でみると、23区が44%、多摩地区が41%で、23区の方が3ポイント高かった。

■ 【「浸水対策強化月間」の認知経路】

- (全体) 「浸水対策強化月間」の認知経路については、「1.東京都や東京都下水道局の広報誌」が42%と最も高く、次いで、「2.東京都下水道局のホームページ」が39%「3.ポスター」が7%、「4.チラシやパンフレットなど」が10%となっている。
- (性別) 「1.東京都や東京都下水道局の広報誌」は男性が40%、女性が44%と女性の方が4ポイント高く、「2.東京都下水道局のホームページ」は男性が39%、女性が40%と女性の方が1ポイント高かった。
- (年代別) 「1.東京都や東京都下水道局の広報誌」は20歳代が28%、30歳代が41%、40歳代が39%、50歳代が43%、60歳代が60%、70歳以上が50%となっており、「2.東京都下水道局のホームページ」は20歳代が39%、30歳代が44%、40歳代が44%、50歳代が37%、60歳代が46%、70歳以上が33%となっている。
- (地域別) 「1.東京都や東京都下水道局の広報誌」は23区が38%、多摩地区が48%と多摩地区の方が10ポイント高く、「2.東京都下水道局のホームページ」は23区が42%、多摩地区が35%と23区の方が7ポイント高かった。

## ■ 【ご家庭での浸水対策について】

- (全体) 「3.自宅の雨ドイや排水口を掃除している」が35%と最も高く、次いで「2.ハザードマップなどで避難場所の確認をしている」が32%、「4.「雨水ます」にゴミを入れない、上に物を置かないよう心がけている」が27%という結果になった。
- (性別) 「2.ハザードマップなどで避難場所の確認をしている」は男性が31%、女性が26%と男性の方が5ポイント高く、「3. 自宅の雨ドイや排水口を掃除している」は男性が34%、女性が27%と男性の方が7ポイント高く、「4. 「雨水ます」にゴミを入れない、上に物を置かないよう心がけている」は男性が21%、女性が17%と男性の方が4ポイント高くなっている。「6. 「浸水への備え」を特におこなっていない」については、男性が49%、女性が53%となっており、全体的に男性の方が行動で浸水対策を行っているという結果となっている。
- (年代別) 20歳代、30歳代、50歳代では「5.この中でやっているものはない」が最も高く、40歳代では「2.ハザードマップなどで避難場所の確認をしている」、60歳代、70歳以上では「3.自宅の雨ドイや排水口を掃除している」が最も高くなった。20歳代、30歳代と50歳代を除いて、年齢が高くなるほど実施割合も高くなる傾向がみえ、最も高い70歳以上は50%、最も低いのは20歳代で5%である。
- (地域別) 「3. 自宅の雨ドイや排水口を掃除している」は23区では66%、多摩地区では27%と23区で39ポイント高く、「5. この中でやっているものはない」については、23区が33%、多摩地区が55%と多摩地区の方が22ポイント高くなった

## ■ 【ご家庭での浸水対策の安全性に対する理由】

- (全体) 「安全だと思う」「たぶん安全だと思う」と回答した理由については、「高台に居住」が50%と最も高く、次いで「高層階に居住」が39%であった。「あまり安全ではないと思う」「安全ではないと思う」と回答した理由については、「川が近い」が48%と最も高かった。

## ■ 【東京アメッシュについて】

- (全体) 東京アメッシュについては、「利用している(したことがある)」と「知っている(利用したことはない)」を合わせると60%であり、「知らなかった」よりも21ポイント高くなった。
- (性別) 「利用している(したことがある)」と「知っている(利用したことはない)」を合わせると男性が66%、女性が54%であり、男性が12ポイント高くなった。
- (年代別) 30歳代が67%で最も高く、20歳代、30歳代が66%、50歳代が62%、60歳代が53%、70歳以上が51%と最も低い結果となった。
- (地域別) 23区が62%、多摩地区が59%となり23区が3ポイント高い結果となった。

## ■ 【下水道の浸水対策の取組に対する関心】

- (全体) 「下水道の浸水対策の取組に対する関心」については、「関心が高まった(非常に関心が高まった+やや関心が高まった)」は95%となった。
- (性別) 「関心が高まった(非常に関心が高まった+やや関心が高まった)」は男性が95%、女性が92%であり、男性が3ポイント高くなった。
- (年代別) 60歳代が97%で最も高く、40歳代の96%を除くと、年齢が上がるにつれポイントが高くなった。
- (地域別) 23区が91%、多摩地区が92%となり多摩地区が1ポイント高い結果となった。



## II 回答者属性

- 平成 26 年度下水道モニター数は、アンケート実施時で 1023 名である。今回、23 区内在住・会社員・30 代男性 1 名が転出のため辞退したので 1023 名となった。
- 第 2 回アンケートは、平成 26 年 6 月 27 日（金）から 7 月 13 日（日）までの 17 日間で実施した。その結果、563 名の方から回答があった。（回答率 55.0%）

■ 回答者 性別・年代				
性別・年代		回答者数	モニター数	回答率
男性	20歳代	9	28	32.1%
	30歳代	51	115	44.3%
	40歳代	83	161	51.6%
	50歳代	64	105	61.0%
	60歳代	61	92	66.3%
	70歳以上	27	37	73.0%
	小計	295	538	54.8%
女性	20歳代	27	53	50.9%
	30歳代	80	162	49.4%
	40歳代	76	143	53.1%
	50歳代	43	68	63.2%
	60歳代	36	51	70.6%
	70歳以上	6	8	75.0%
	小計	268	485	55.3%
<b>合計</b>		<b>563</b>	<b>1023</b>	<b>55.0%</b>
■ 回答者 居住地				
居住地		回答者数	モニター数	回答率
23区		342	625	54.7%
多摩地区		215	392	54.8%
その他の地域		6	6	100.0%
<b>合計</b>		<b>563</b>	<b>1023</b>	<b>55.0%</b>
■ 回答者 職業				
職業		回答者数	モニター数	回答率
会社員		247	476	51.9%
自営業		45	86	52.3%
学生		10	20	50.0%
私立学校教員・塾講師		11	12	91.7%
パート		29	66	43.9%
アルバイト		16	24	66.7%
専業主婦		109	204	53.4%
無職		78	106	73.6%
その他		18	29	62.1%
<b>合計</b>		<b>563</b>	<b>1023</b>	<b>55.0%</b>

※第一回アンケートより23区内在住・会社員・30代男性1名が転出のため辞退した。

※引越しなどで移転した場合「居住地」区分を「その他の地域」とした。

### Ⅲ 集計結果

※ 文中の「n」は質問に対する回答者数で、比率（％）はすべて「n」を基数（100％）として算出している。  
また、小数点以下を四捨五入してあるので、内訳の合計が100％にならないこともある。

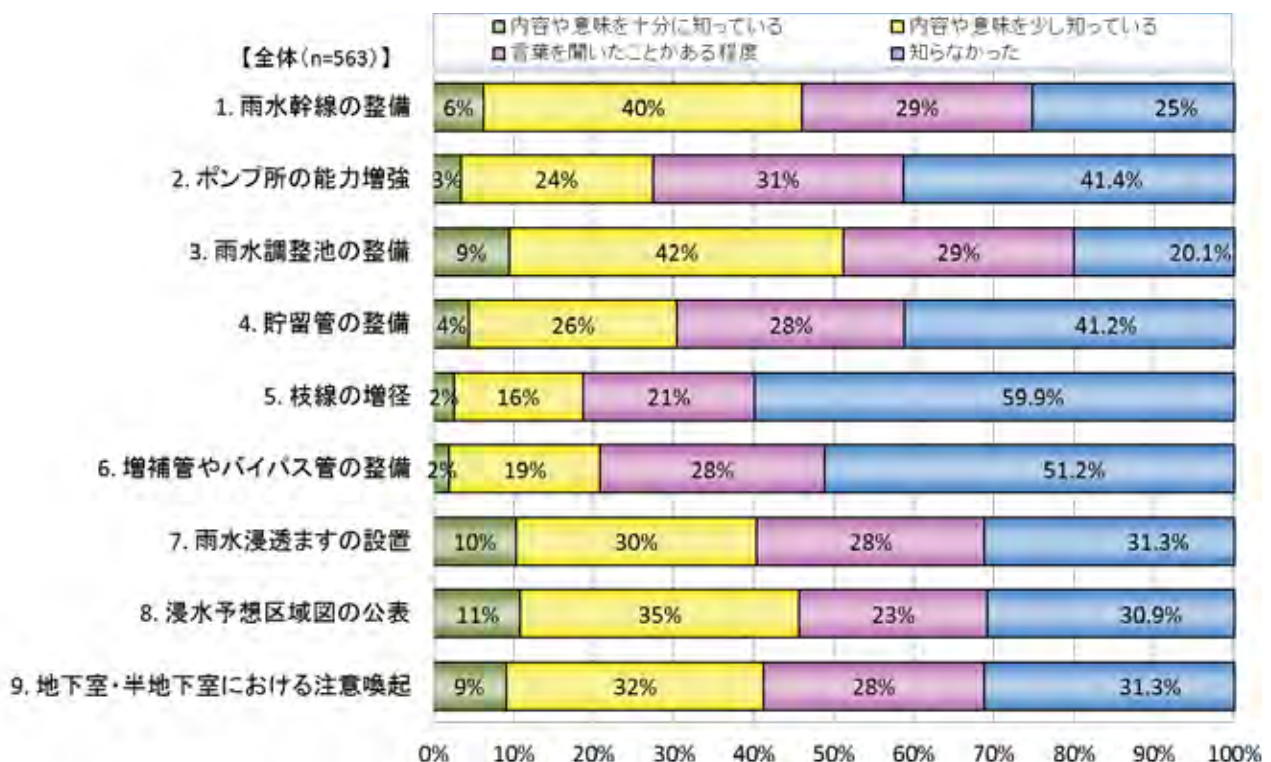
## 1. 『下水道の浸水対策』について

### 1-1. 下水道の浸水対策についての認識度〔全体〕

- ◆ 「下水道の浸水対策」の認識度について、内容を知っている（内容や意味を十分に知っている+内容や意味を少し知っている）と回答したものでは、「3.雨水調整池の整備」が51％と最も高く、次いで「1 雨水幹線の整備」「8.浸水予想区域図の公表」が46％、「9.地下室・半地下室における注意喚起」が41％となっており、「5.枝線の増径」が18％と最も低い結果となった。

Q5 東京都下水道局が行っている浸水対策の取組についてうかがいます。以下のそれぞれの項目について、あなたはこのことをご存知でしたか？該当する選択肢を一つだけお選び下さい（単一回答）。

図1-1 「下水道の浸水対策」についての認識度〔全体〕

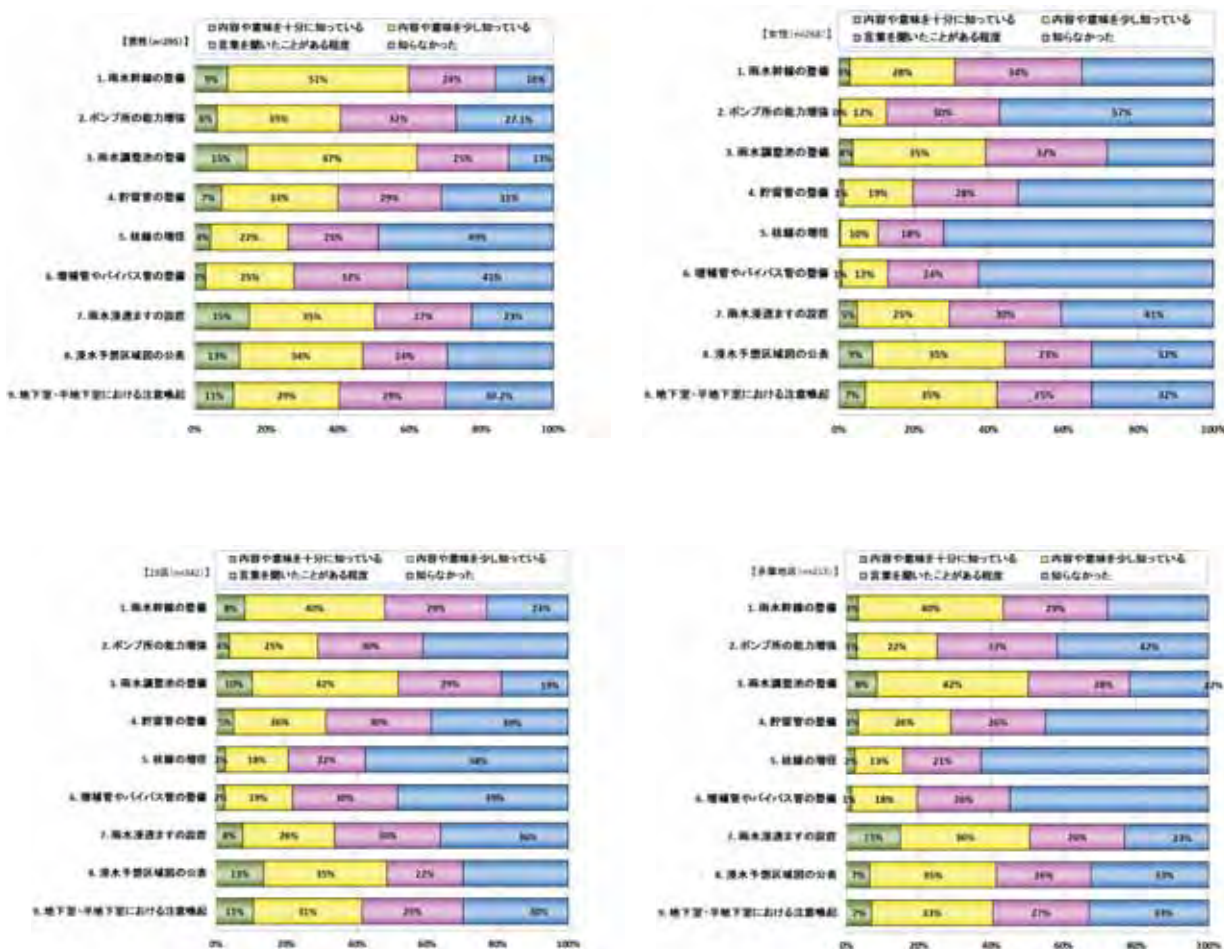


## 1-2. 下水道の浸水対策についての認識度〔性別・地域別〕

- ◆ 「下水道の浸水対策」の認識度について性別でみると、内容を知っている（内容や意味を十分に知っている+内容や意味を少し知っている）と回答したもので、男性は「3.雨水調整池の整備」が62%と最も高く、女性は「8.浸水予想区域図の公表」が44%と最も高い結果となった。
- ◆ 地域別でみると、23区は「3.雨水調整池の整備」が52%と最も高く、多摩地区は「7.雨水浸透ますの設置」が51%と最も高くなっている。

Q5 東京都下水道局が行っている浸水対策の取組についてうかがいます。以下のそれぞれの項目について、あなたはこのことをご存知でしたか？該当する選択肢を一つだけお選び下さい（単一回答）。

図1-2 「下水道の浸水対策」についての理解度〔性別・地域別〕



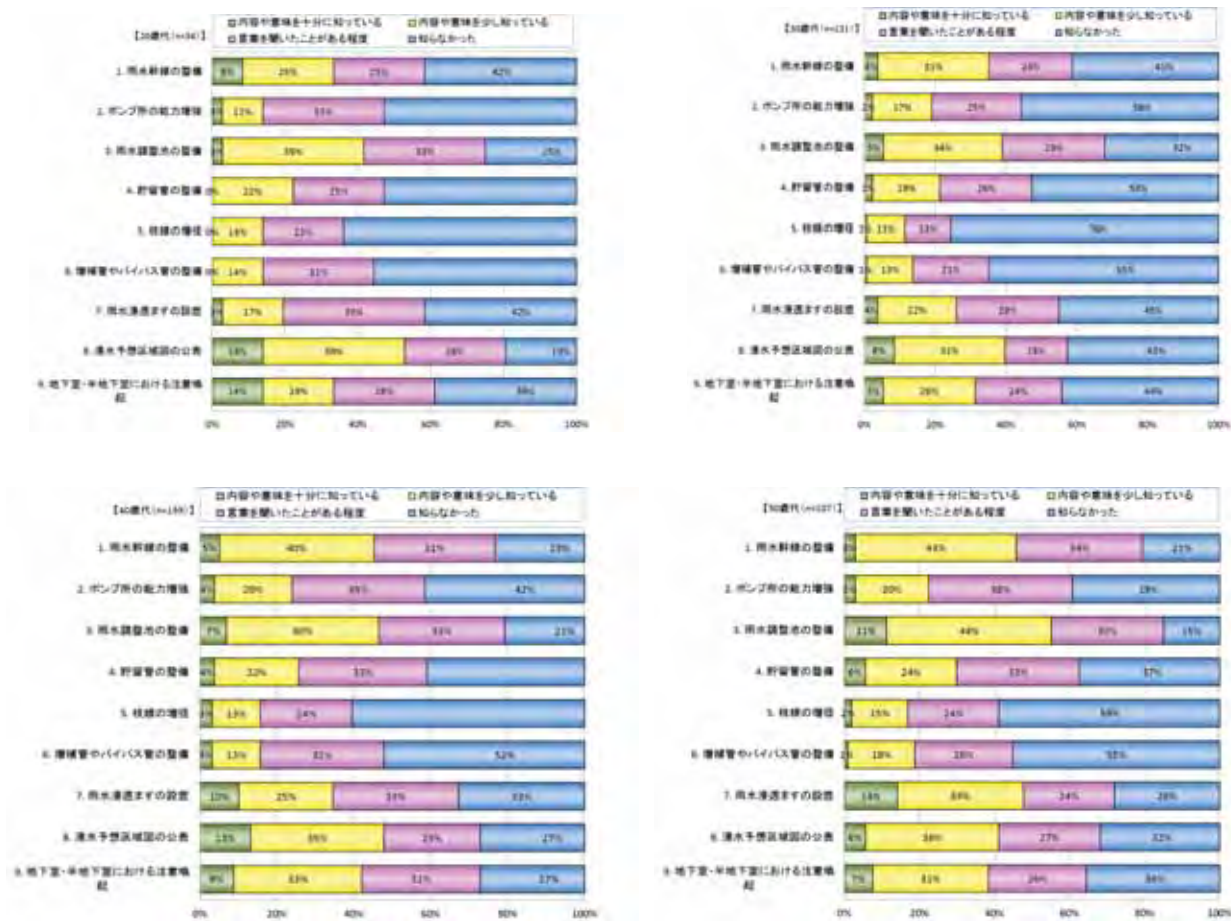


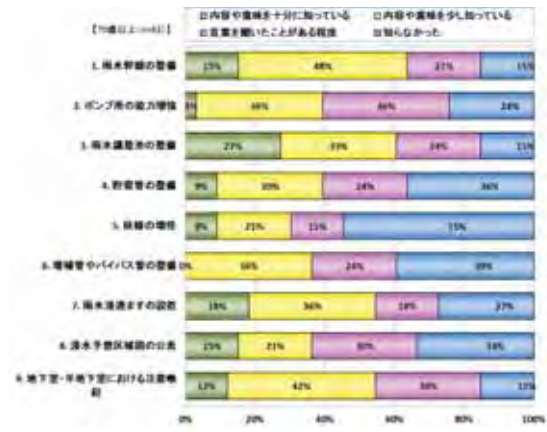
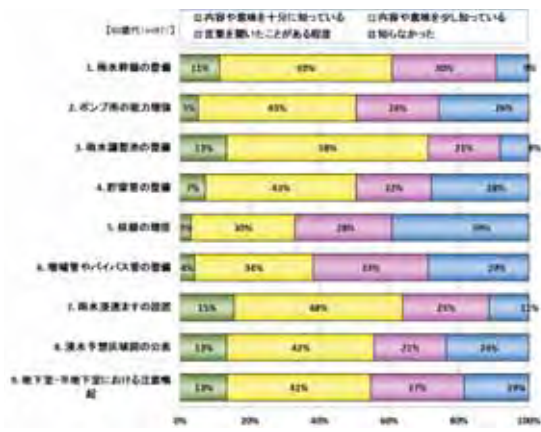
### 1-3. 下水道の浸水対策についての認識度〔年代別〕

- ◆ 「下水道事業」の認識度について年代別でみると、内容を知っている（内容や意味を十分に知っている+内容や意味を少し知っている）と回答したもので、20歳代と40歳代では「8.浸水予想区域図の公表」が最も高く、それぞれ20歳代が53%、40歳代が39%となっており、50歳代と60歳代では「3.雨水貯水池の整備」が最も高く、それぞれ50歳代が55%、60歳代が71%となっており、70歳以上では「1.雨水幹線の整備」が63%と最も高い結果であった。30歳代では「3.雨水貯水池の整備」と「8.浸水予想区域図の公表」が39%で同ポイントであった。

Q5 東京都下水道局が行っている浸水対策の取組についてうかがいます。以下のそれぞれの項目について、あなたはこのことをご存知でしたか？該当する選択肢を一つだけお選び下さい（単一回答）。

図1-3 「下水道事業」の理解度〔年代別〕





Q6に進む前に、ご覧ください

【下水道の浸水対策】

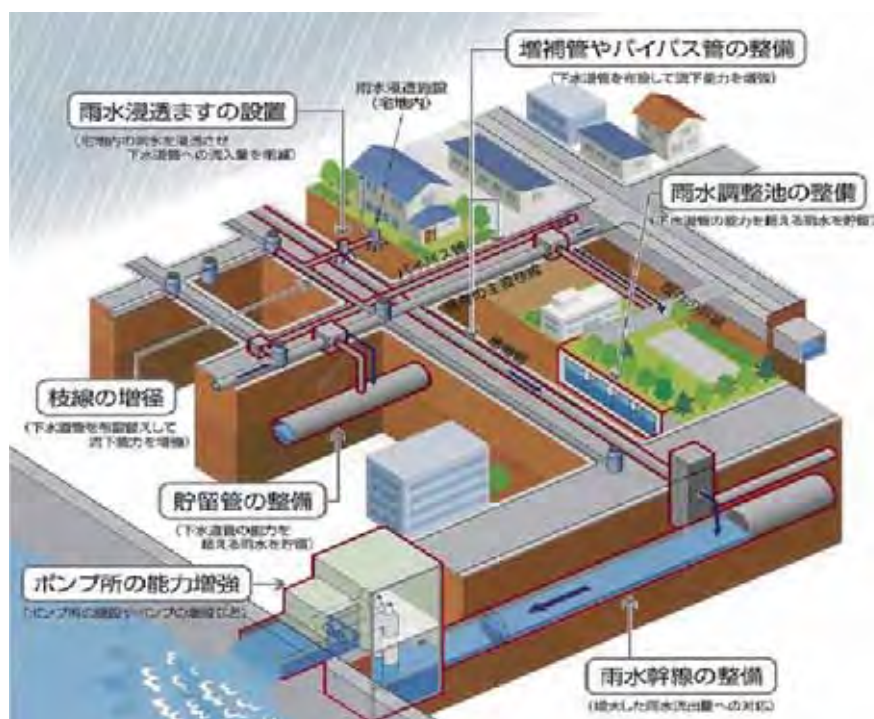
東京都では、平成19年に、豪雨への対策を中心にその方向性を取りまとめた「東京都豪雨対策基本方針」を策定しました。下水道局における対策としては、「東京都豪雨対策基本方針」を踏まえ、「1時間50mmの降雨への対応」「1時間50mmを超える降雨への対応」「雨水の流出抑制への取組」とし、さらに下水道サービスの向上として「浸水に備えるリスクコミュニケーションの充実」を推進することとしています。

下水道の浸水対策において、大雨が降った時の浸水を防ぐため、

- ① 水の下水道管への流入量を削減
- ② 下水道管の流下能力を増やす
- ③ 下水道管の能力を超える雨水を貯留する
- ④ 雨水を川や海に迅速に放流させる

等の対応策を施す必要があります。

浸水対策のイメージと、具体策を示します。



「雨水幹線の整備」: 下水道管に流入した雨水をまとめて河川に放流するための大きな下水道管を整備します。

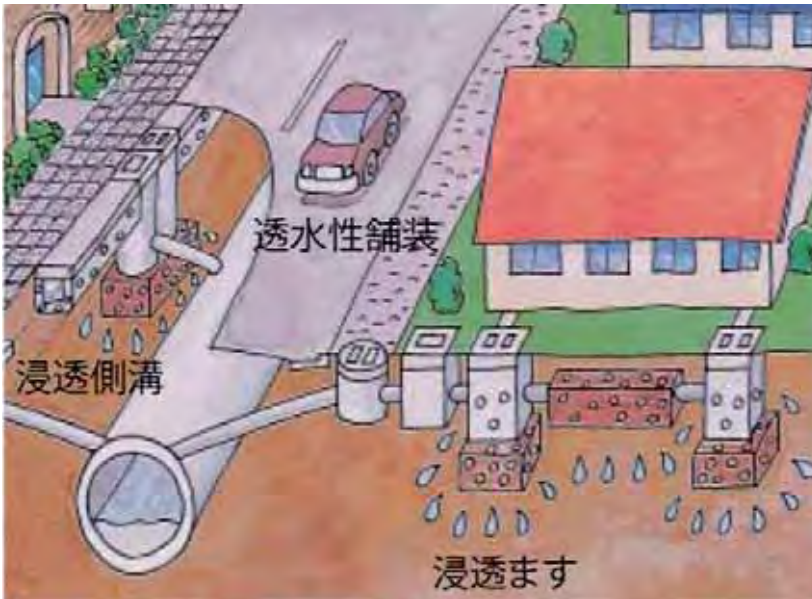
「ポンプ所の能力増強」: 下水道管に流入した雨水をまとめて汲み上げて、河川に放流するポンプ施設を整備します。

「雨水調整池の整備」: 浸水被害の危険性が高い地下街周辺において、下水道管の流下能力を超える雨水を貯留する施設を整備します。

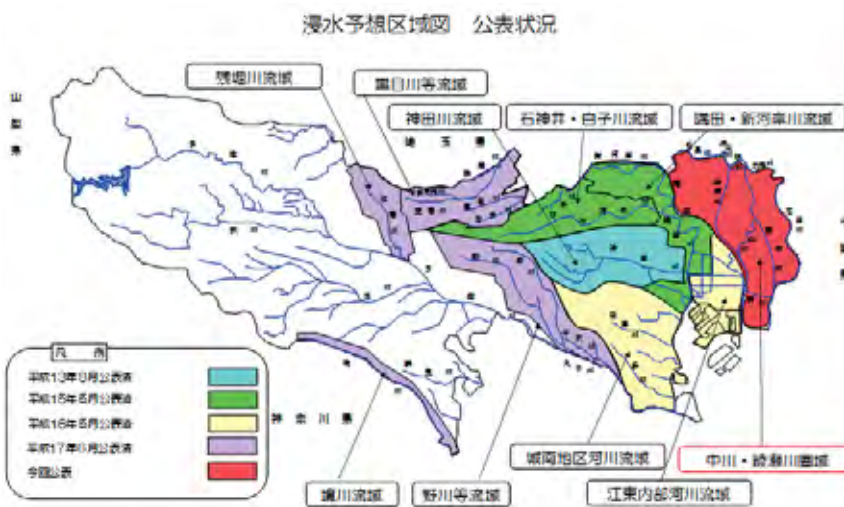
「枝線の増径」: 古くなった下水道管を新しいものに入れ替える際に、下水道管大きくして流下能力を高めます。

「増補管やバイパス管の整備」: 下水道管を追加（増補管）、水の流れを変えたりして（バイパス管）、浸水被害が  
起こりやすい箇所における下水道管の流下能力を高めます。





「雨水浸透ますの設置」：学校、公園、庁舎などの都管理施設において、降雨を地下に浸透させ、下水道管への雨水の流入を抑制する施設の設置を促進します。



「浸水予想区域図の公表」：河川周辺の浸水の被害性をホームページ等で周知する。  
 「地下室・半地下室における注意喚起」：雨天時に下水道管からの逆流防止のために、排水ポンプの設置や止水板、土のう等の整備といったご家庭における浸水予防策を促進します。

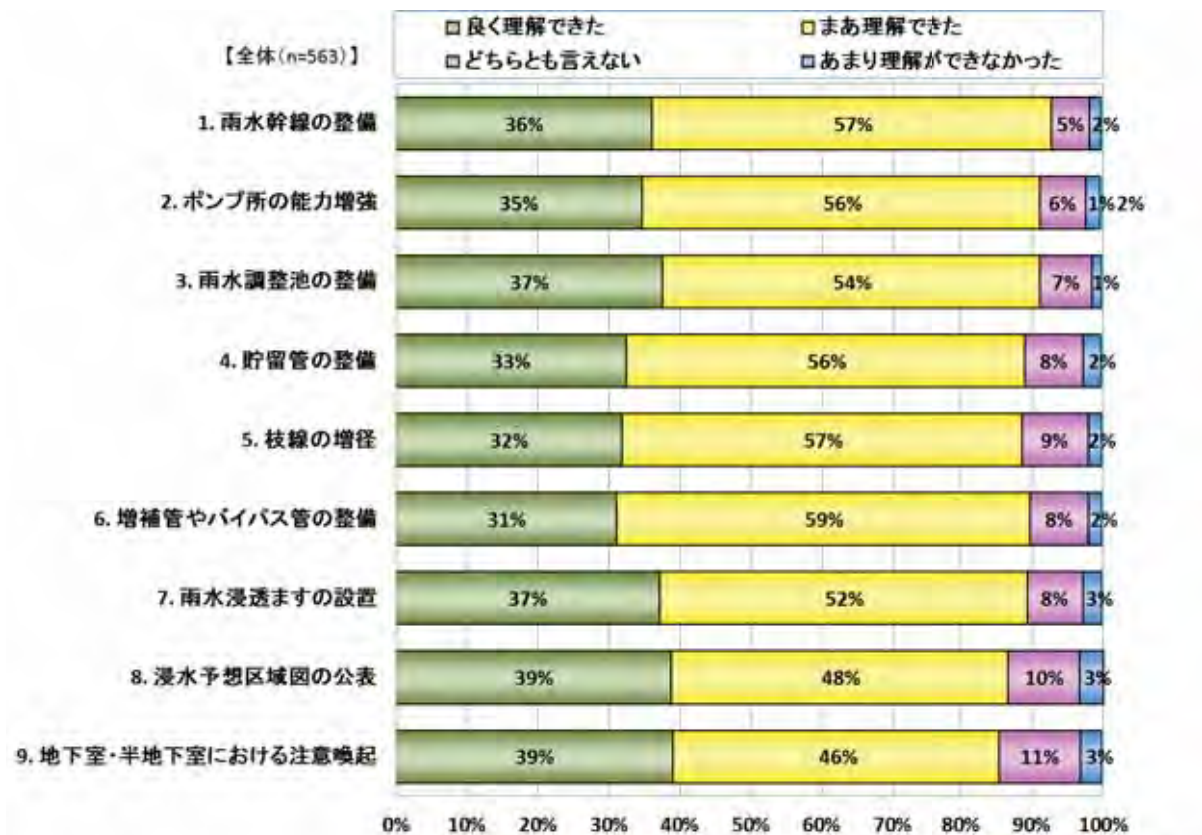


## 1-4. 下水道の浸水対策のイメージと具体策についての理解度〔全体〕

- ◆ 「下水道の浸水対策のイメージと具体策」の理解度について、内容を理解できた（良く理解できた+まあ理解できた）と回答したものでは、「1.雨水幹線の整備」が93%と最も高く、次いで「2.ポンプ所の能力増強」「3.雨水調整池の整備」が91%の同ポイント、「9.地下室・半地下室における注意喚起」が85%となっており最も低い結果となった。

Q6 浸水対策のイメージと具体策をご覧いただき、以下に示す各取組について、それぞれ該当する選択肢を一つだけお選びいただき、あなたの理解度をお答えください。（単一回答）

図1-4 「下水道の浸水対策のイメージと具体策」についての理解度〔全体〕

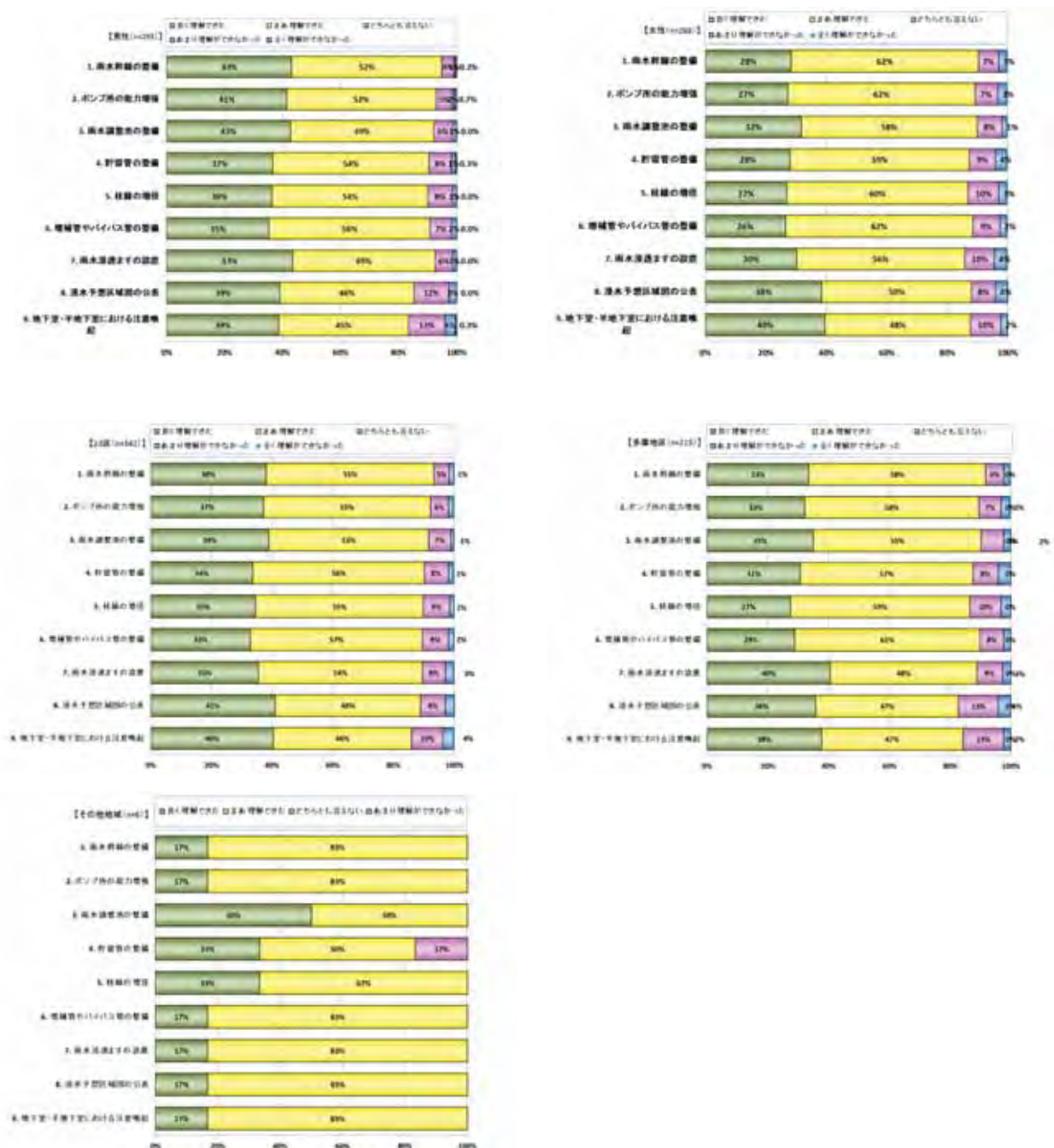


# 1-4. 下水道の浸水対策のイメージと具体策についての理解度〔性別・地域別〕

- ◆ 「下水道の浸水対策のイメージと具体策」の認識度について性別でみると、内容を理解できた（よく理解できた+まあ理解できた）と回答したもので、男性は「1. 雨水幹線の整備」が95%と最も高く、女性も「1. 雨水幹線の整備」が90%と最も高い結果となった。
- ◆ 地域別でみると、23 区は「1. 雨水幹線の整備」が93%と最も高く、多摩地区は「1. 雨水幹線の整備」「2. ポンプ所の能力増強」が91%と最も高くなっている。

Q6 浸水対策のイメージと具体策をご覧いただき、以下に示す各取組について、それぞれ該当する選択肢を一つだけお選びいただき、あなたの理解度をお答えください。（単一回答）

図1-4 「下水道の浸水対策のイメージと具体策」についての理解度〔性別・地域別〕

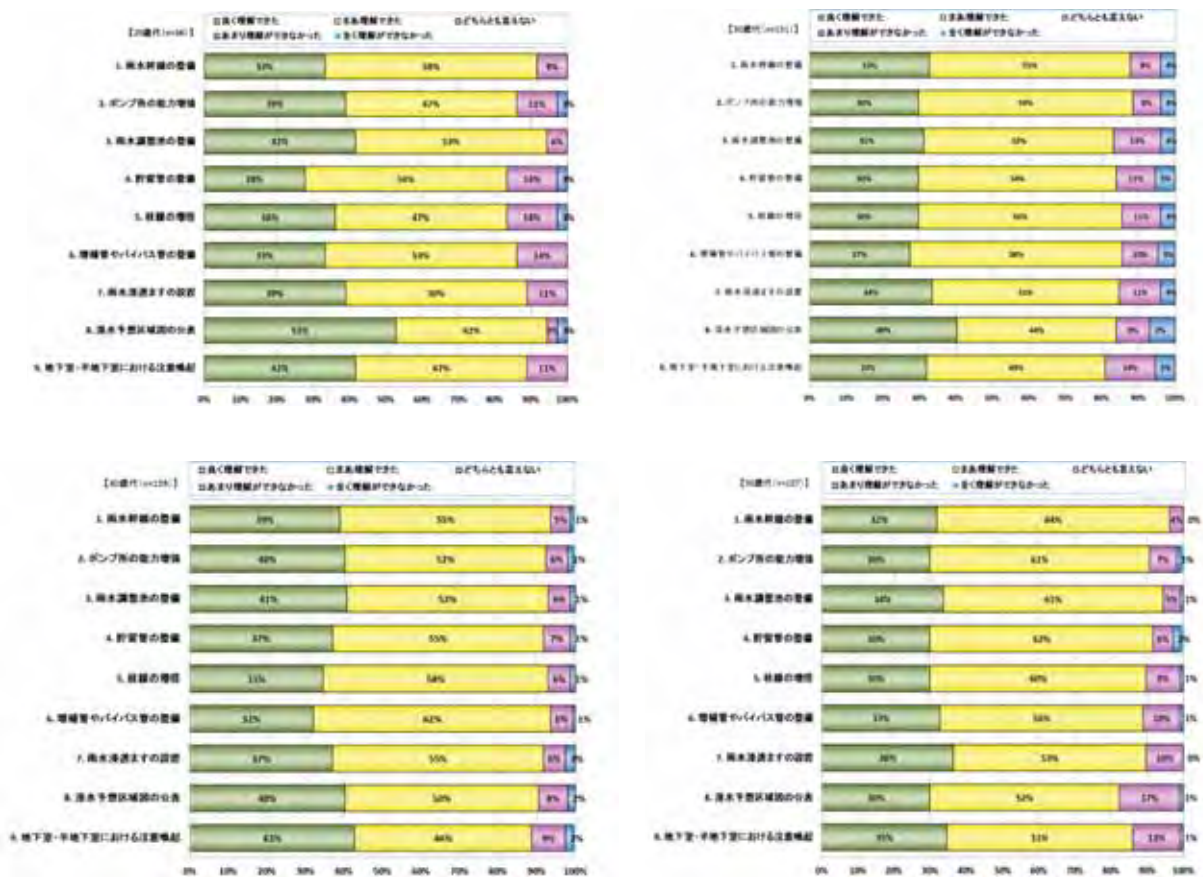


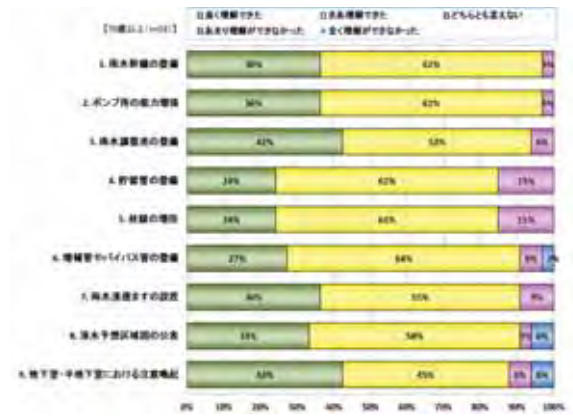
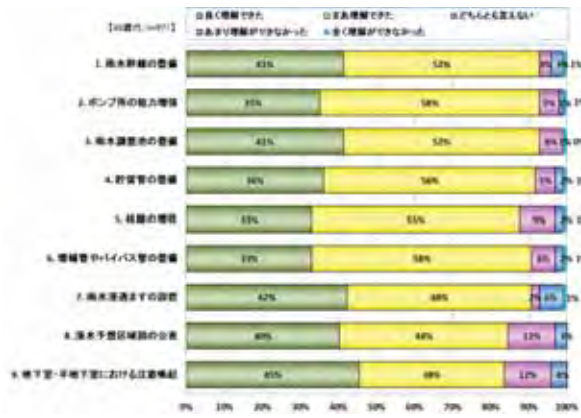
## 1-5. 下水道の浸水対策のイメージと具体策についての理解度〔年代別〕

- ◆ 「下水道の浸水対策のイメージと具体策」の理解度について年代別でみると、内容を理解できた（よく理解できた+まあ理解できた）と回答したもので、20歳代では「8.浸水予想区域図の公表」が最も高く、95%、30歳代では「2.ポンプ所の能力増強」、40歳代から70歳代までは「1.雨水幹線の整備」が最も高く、それぞれ40歳代が94%、50歳代が96%、60歳代が93%、70歳以上では97%となった。また40歳代では「6.補助管やバイパス管の整備」も94%と最も高く、60歳代では「2.ポンプ所の能力増強」「3.雨水貯水池の整備」も93%、70歳以上では「2.ポンプ所の能力増強」も97%と最も高い結果となった。

Q6 浸水対策のイメージと具体策をご覧ください、以下に示す各取組について、それぞれ該当する選択肢を一つだけお選びいただき、あなたの理解度をお答えください。（単一回答）

図1-5 「下水道の浸水対策のイメージと具体策」についての理解度〔年代別〕





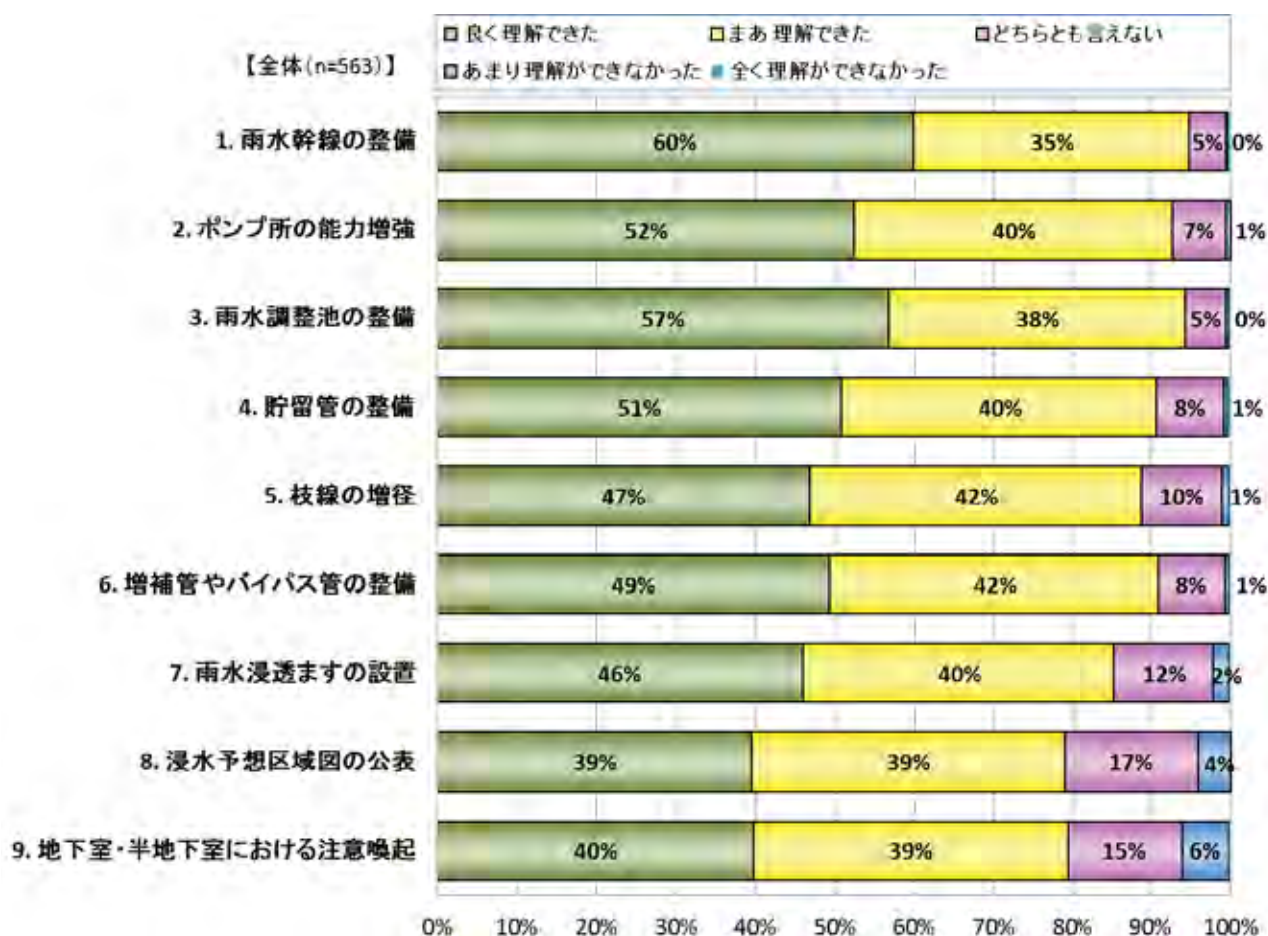


## 1-6. 下水道の浸水対策のイメージと具体策についての評価〔全体〕

- ◆ 「下水道の浸水対策のイメージと具体策」の評価について性別でみると、内容を理解できた（よく理解できた+まあ理解できた）と回答したもので、「1.排水幹線の整備」が60%で最も高く、次いで「3.雨水調整池の整備」が57%、「2.ポンプ所の能力増強」となっており、「8.浸水予想区域図」が39%と最も低い結果となった。

Q7 上記Q6と同様に、以下に示す各取組について、浸水被害の低減にどれほど有効であるか、それぞれ該当する選択肢を一つだけお選びいただき、あなたの評価をお答えください。（単一回答）

図1-6 「下水道の浸水対策イメージと具体策」の評価〔性別・地域別〕

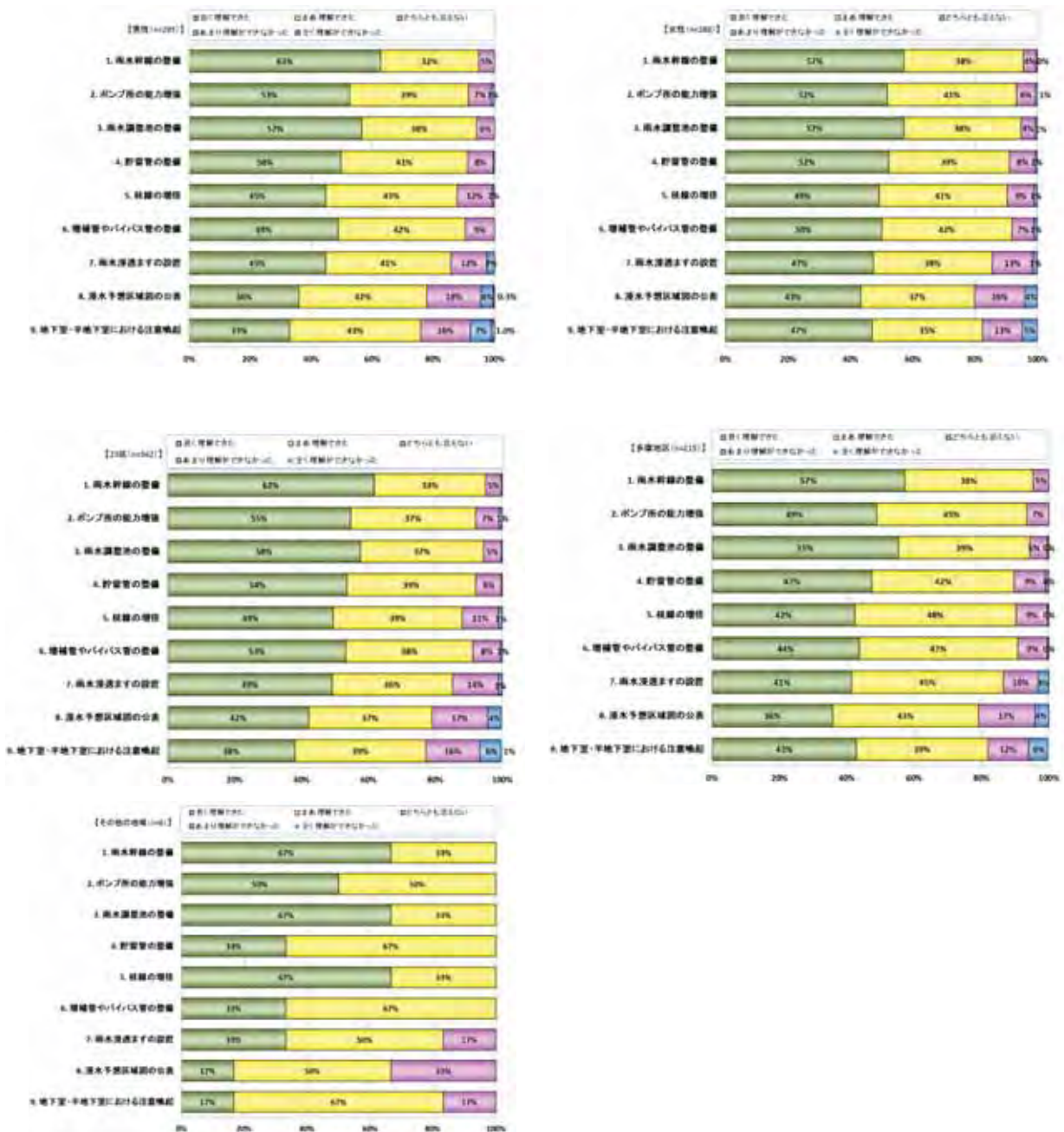


# 1-7. 下水道の浸水対策のイメージと具体策についての評価〔性別・地域別〕

- ◆ 「下水道の浸水対策のイメージと具体策」の評価について性別でみると、内容を理解できた（よく理解できた+まあ理解できた）と回答したもので、男性は「3. 雨水調整池の整備」が96%と最も高く、女性は「1.排水幹線の整備」が95%と最も高くなっている。
- ◆ 地域別でみると、23区と多摩地区は同じく「1.排水幹線の整備」がそれぞれ95%、と最も高くなっており、23区では「3. 雨水調整池の整備」も同ポイントとなっている。

Q7 上記Q6と同様に、以下に示す各取組について、浸水被害の低減にどれほど有効であるか、それぞれ該当する選択肢を一つだけお選びいただき、あなたの評価をお答えください。（単一回答）

図1-7 「下水道の浸水対策イメージと具体策」の評価〔性別・地域別〕

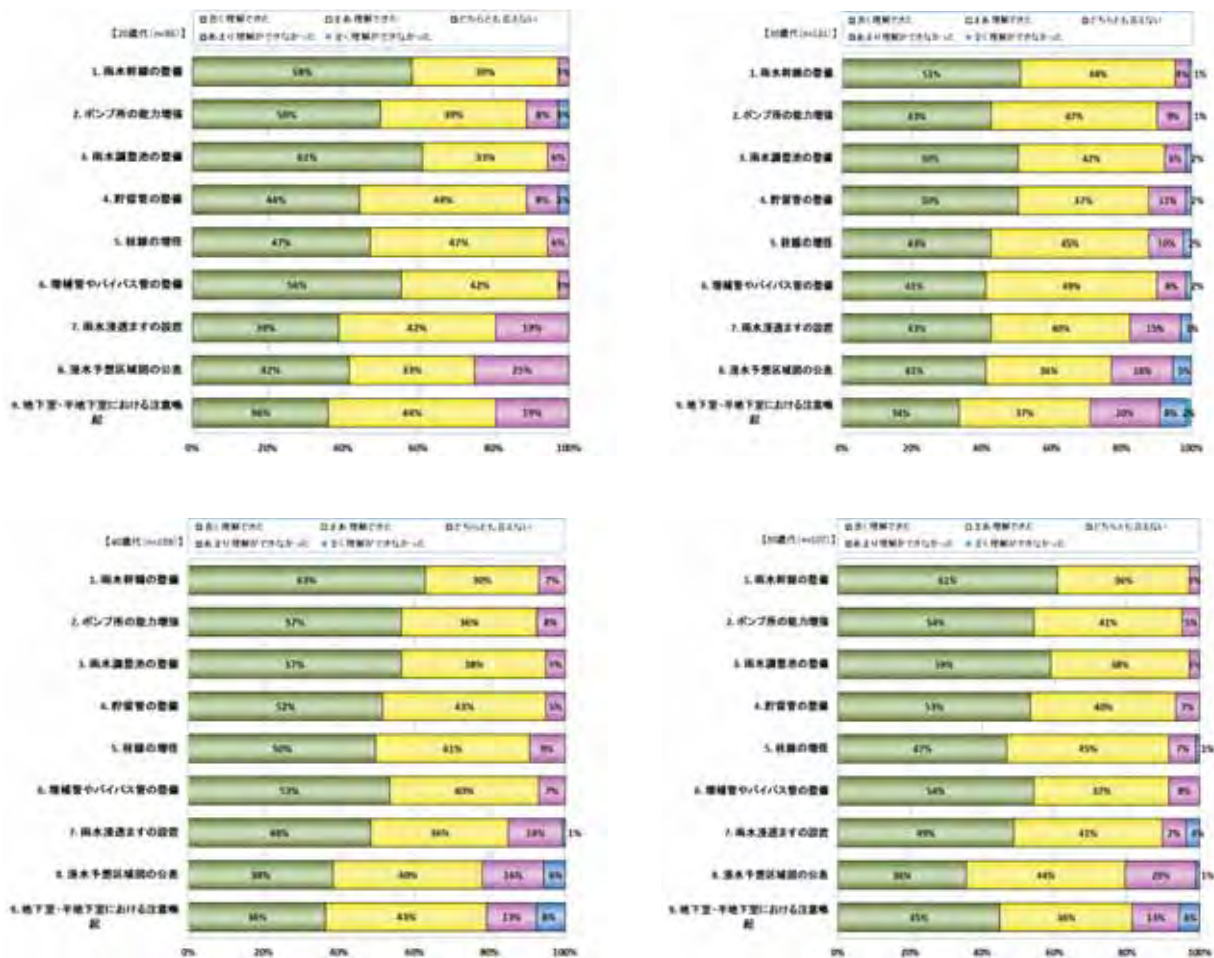


## 1-8. 下水道の浸水対策イメージと具体策についての評価〔年代別〕

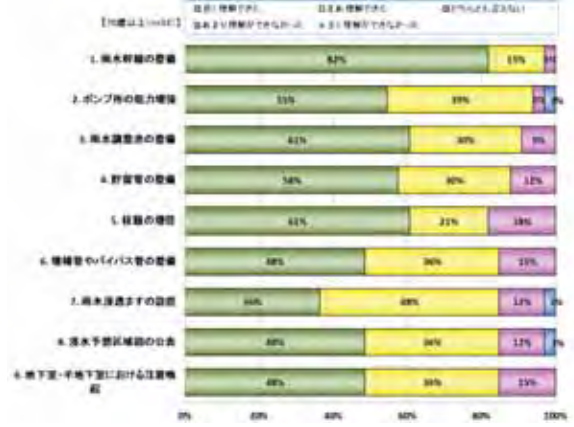
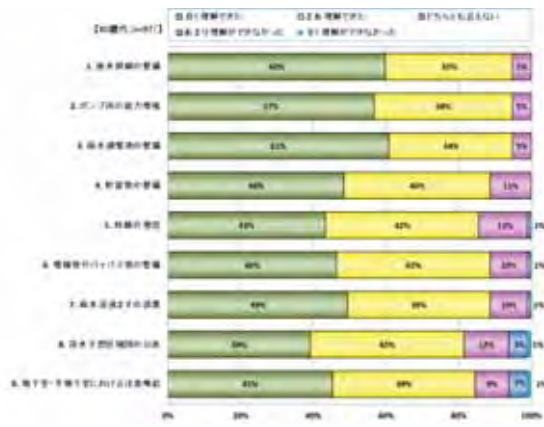
- ◆ 「下水道の浸水対策イメージと具体策」の評価について年代別でみると、内容を理解できた（よく理解できた+まあ理解できた）と評価したもので、20歳代と40歳代を除いた年代では「1. 雨水幹線の整備」が最も高く、それぞれ30歳代と60歳代が95%、50歳代と70歳以上が97%となった。20歳代では「6.増補管やバイパス管の整備」が98%、40歳代では「3.雨水調整池の整備」「4.貯留管の整備」が95%と最も高くなった。また、50歳代では「3.雨水調整池の整備」、60歳代では「2.ポンプ所の能力増強」「3.雨水調整池の整備」もそれぞれ50歳代では97%、60歳代では95%と「1. 雨水幹線の整備」と同じく最も高くなった。

Q7 上記Q6と同様に、以下に示す各取組について、浸水被害の低減にどれほど有効であるか、それぞれ該当する選択肢を一つだけお選びいただき、あなたの評価をお答えください。（単一回答）

図1-8 「下水道の浸水対策イメージと具体策」の評価〔年代別〕







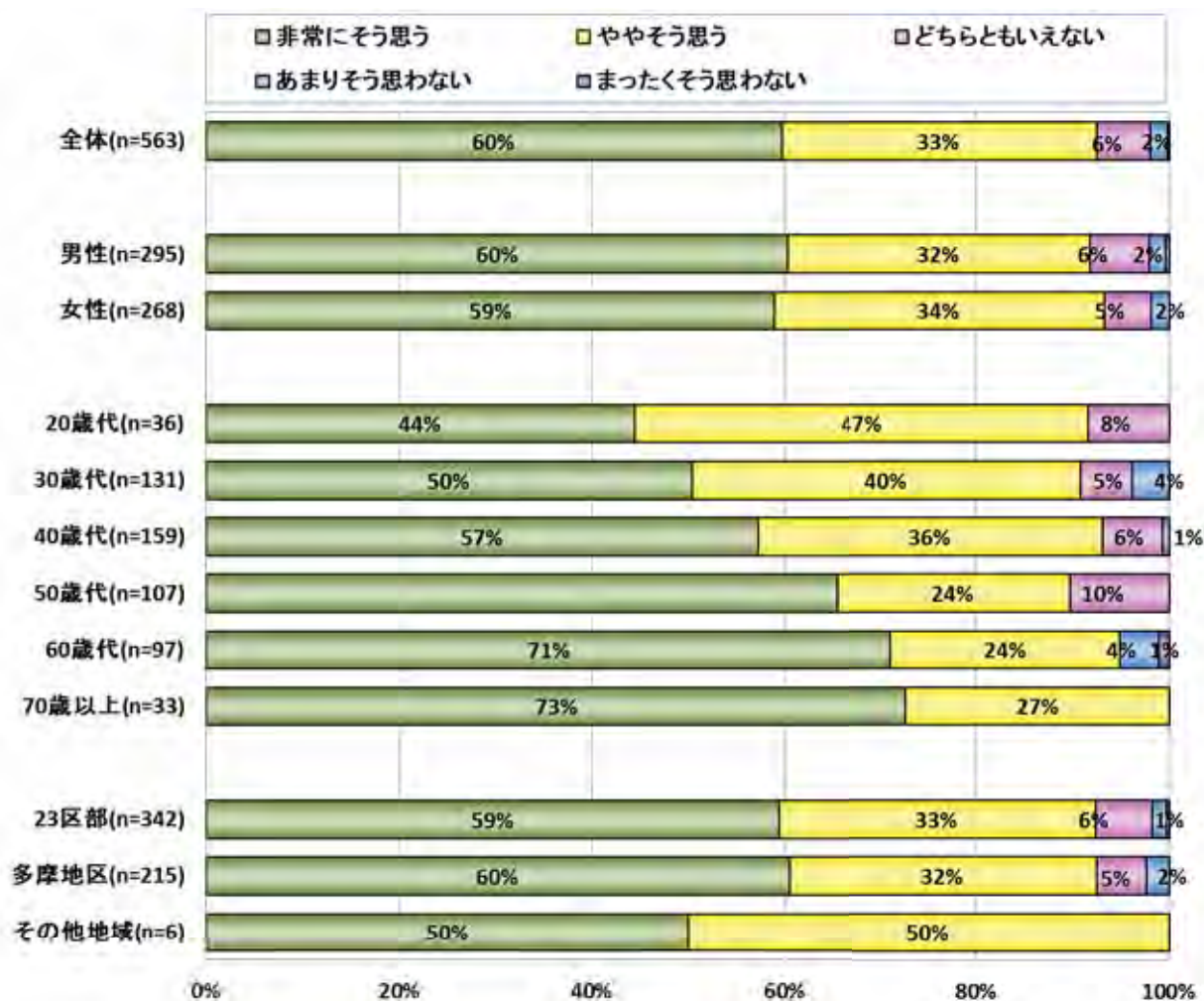


## 1-9. 下水道の浸水対策イメージと具体策についての意見〔全体〕

- ◆ 「下水道の浸水対策のイメージと具体策」の意見について、「非常にそう思う」が全体の60%と最も高くなった。ついで、「ややそう思う」が33%となり、合わせて93%はそう思うという結果となった。
- ◆ 「下水道の浸水対策のイメージと具体策」の意見について、男性では「非常にそう思う」は60%、女性では59%となり、男性が1ポイント高い結果となった。年代別では、「非常にそう思う」は年代があがるにつれ高くなり、20歳代では44%、70歳以上では73%となり29ポイント高い結果となった。
- ◆ 地域別でみると、23区部では59%、多摩地区では60%となり、多摩地区が1ポイント高い結果となった。

Q8. 東京都下水道局では、区部全域で1時間50mmの降雨に対して浸水被害の解消を図る取組を行っていますが、平成25年度においても、東京都区部において、下表のような浸水被害が発生しています。あなたは、浸水対策において、整備水準のレベルアップを含めた対応が必要だと思いますか？以下の中から該当する選択肢を一つだけお答え下さい（単一回答）。

図1-9 「下水道の浸水対策イメージと具体策」についての意見〔全体〕



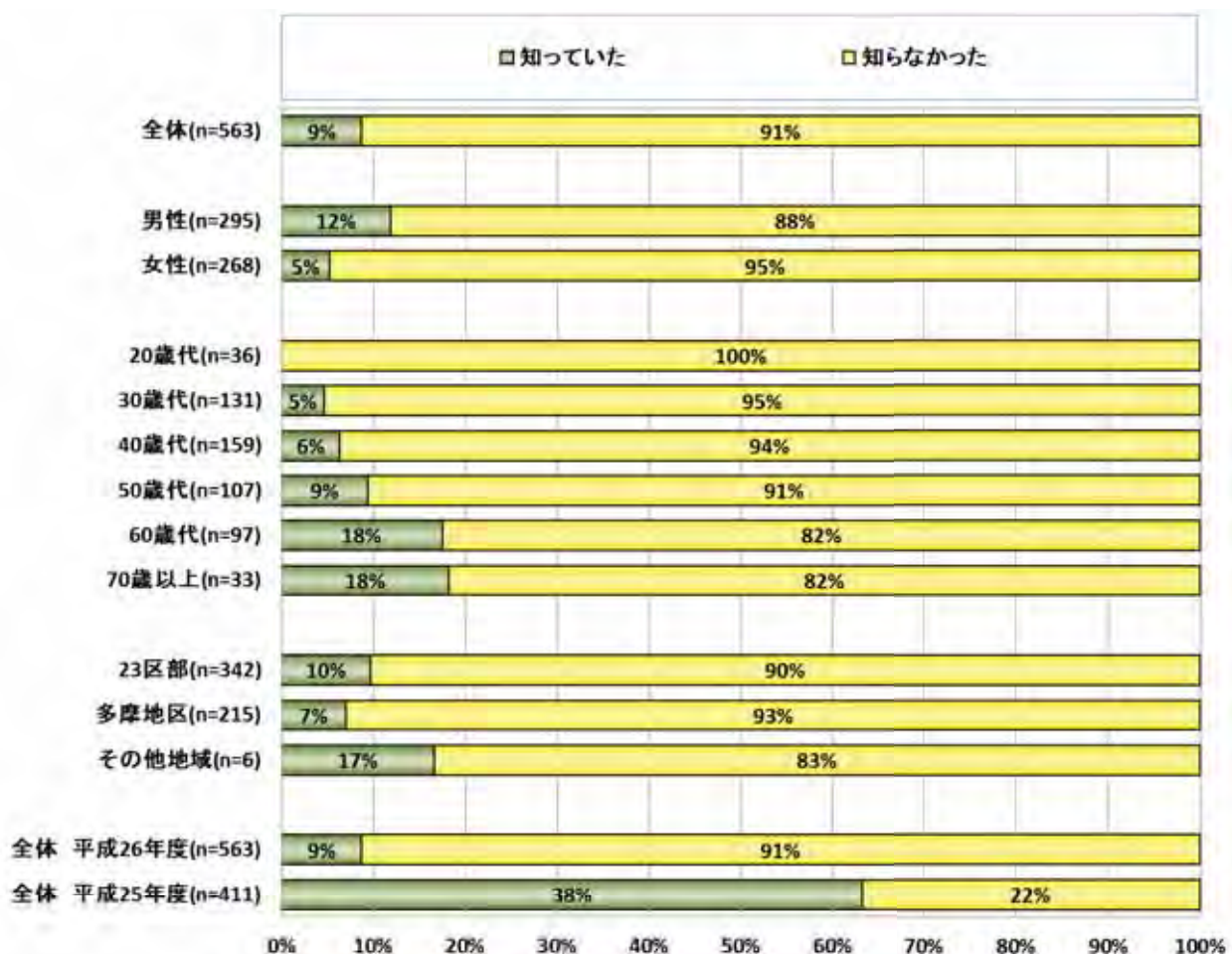
## 1-10. 豪雨対策下水道緊急プランへの認知度〔全体〕

- ◆ 「豪雨対策下水道緊急プラン」への認知度については、「知っていた」は全体で9%となり「知らなかった」は91%となった。男性では「知っていた」は12%、女性では5%と低かった。年代別では、「知らなかった」は20歳代では0%、30歳代では5%、40歳代では6%、50歳代では9%、60歳代と70歳以上では同じく18%の結果となった。
- ◆ 地域別でみると、23区では、「知っていた」は10%、多摩地区では7%、その他地域では17%の結果となった。

Q9 東京都下水道局では、平成25年の局地的集中豪雨や台風により、甚大な浸水被害が生じたことから、雨水整備水準のレベルアップを含む検討を進めてきました。

平成25年12月、豪雨による浸水被害の軽減を目指して「豪雨対策下水道緊急プラン」を策定しました。あなたは、このプランを知っていましたか？以下の中から該当する選択肢を一つだけお答え下さい（単一回答）。

図1-10 「豪雨対策下水道緊急プラン」についてのプラン〔全体〕



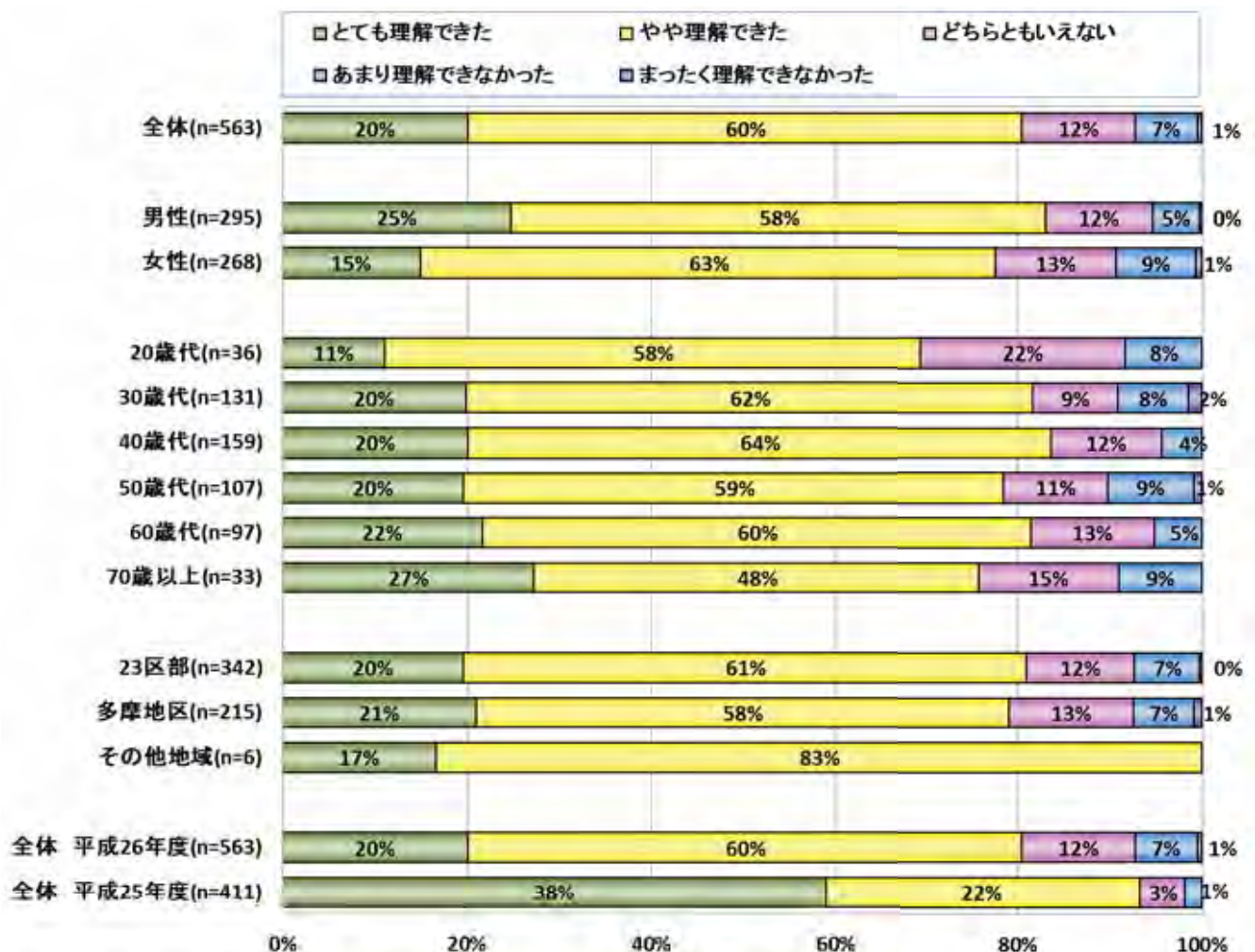
## 1-11. 豪雨対策下水道緊急プランの理解度〔全体〕

- ◆ 「豪雨対策下水道緊急プラン」への認知度については、理解できた（とても理解できた+やや理解できた）は全体で80%となり、理解できなかった（あまり理解できなかった+まったく理解できなかった）で8%となった。
- ◆ 「豪雨対策下水道緊急プラン」への理解度について性別でみると、理解できた（とても理解できた+やや理解できた）と回答したものは、男性では83%、女性では78%となり、男性が5ポイント高い結果となった。
- ◆ 地域別でみると、23区では81%、多摩地区では79%となった。

Q10 「豪雨対策下水道緊急プラン」について、概要版を示します。

あなたは、このプランを理解できましたか？以下の中から該当する選択肢を一つだけお答え下さい（単一回答）。

図1-11 「下水道の浸水対策イメージと具体策」についての緊急プランの理解度〔全体〕





## 策定方針

### 【現在の取組】

- ・対策促進地区や浅い幹線の流域などの重点地区等で時間50ミリの施設整備を推進
- ・浸水被害の影響が大きい大規模地下街9地区に限定して時間75ミリの降雨に対応

### 【平成25年の浸水被害】

- ・集中豪雨や台風で700㎜を超える**甚大な浸水被害**が生じたことから、雨水整備水準のレベルアップを含めたプランを検討

### 【緊急プランの策定】

- ・地形や河川整備状況、被害規模などを踏まえ、優先度を考慮しつつ、**時間75ミリの降雨**に対応する施設整備も含めた**緊急プラン**を策定

## 3つの取組方針

一定規模以上の床上浸水が集中して発生した地域では、**時間75ミリの降雨**に対応できる施設を建設

既に施設整備を計画している地域のうち、今年被害が生じた地域では、**時間50ミリの降雨**に対しても被害を軽減

被害箇所が点在し浸水棟数が少ないなど被害が比較的小規模な地域では、区等と連携し**対策を早期**に実施

### 「ソフト対策」により自動・共助の取組を支援

- 東京メトロの精度向上、幹線水位など情報提供を充実
- 浸水対策強化月間の取組やツイッターでの情報発信などお客さまの自動・共助を支援



## 対策地区と取組内容

### 「75ミリ対策地区」

目黒区上目黒、世田谷区砧巻地区など**4地区**

流出解析シミュレーションを活用し、既存施設の下に**時間75ミリ対応の新たな対策幹線**の整備など

### 「50ミリ拡充対策地区」

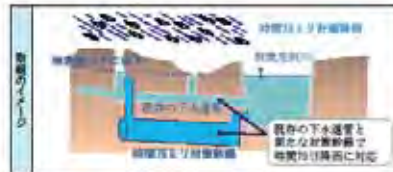
品川区戸越、西品川地区など**6地区**

施設整備の**前倒し**や、周辺の**既存貯留施設の活用**など可能な**対策を組み合わせた新たな施設**の整備など

### 「小規模緊急対策地区」

杉並区善福寺地区など**6地区**

**バイパス管**の設置や区と連携した**雨水ますの増設**、**グレーティング蓋への取替え**など、現場状況に応じた対策



## 事業推進に向けて

- 2020年東京オリンピック・パラリンピック開催に向け、お客さまに安心して安全な東京をアピール
- 「75ミリ対策地区」、「50ミリ拡充対策地区」では平成31年度末までに効果を発揮、「小規模緊急対策地区」は3年以内に完了
- お客さまとのパートナーシップや、庁内関係局、区との連携を強化
- 今後の局地的集中豪雨等による浸水被害の発生状況により、実施地区の追加を検討

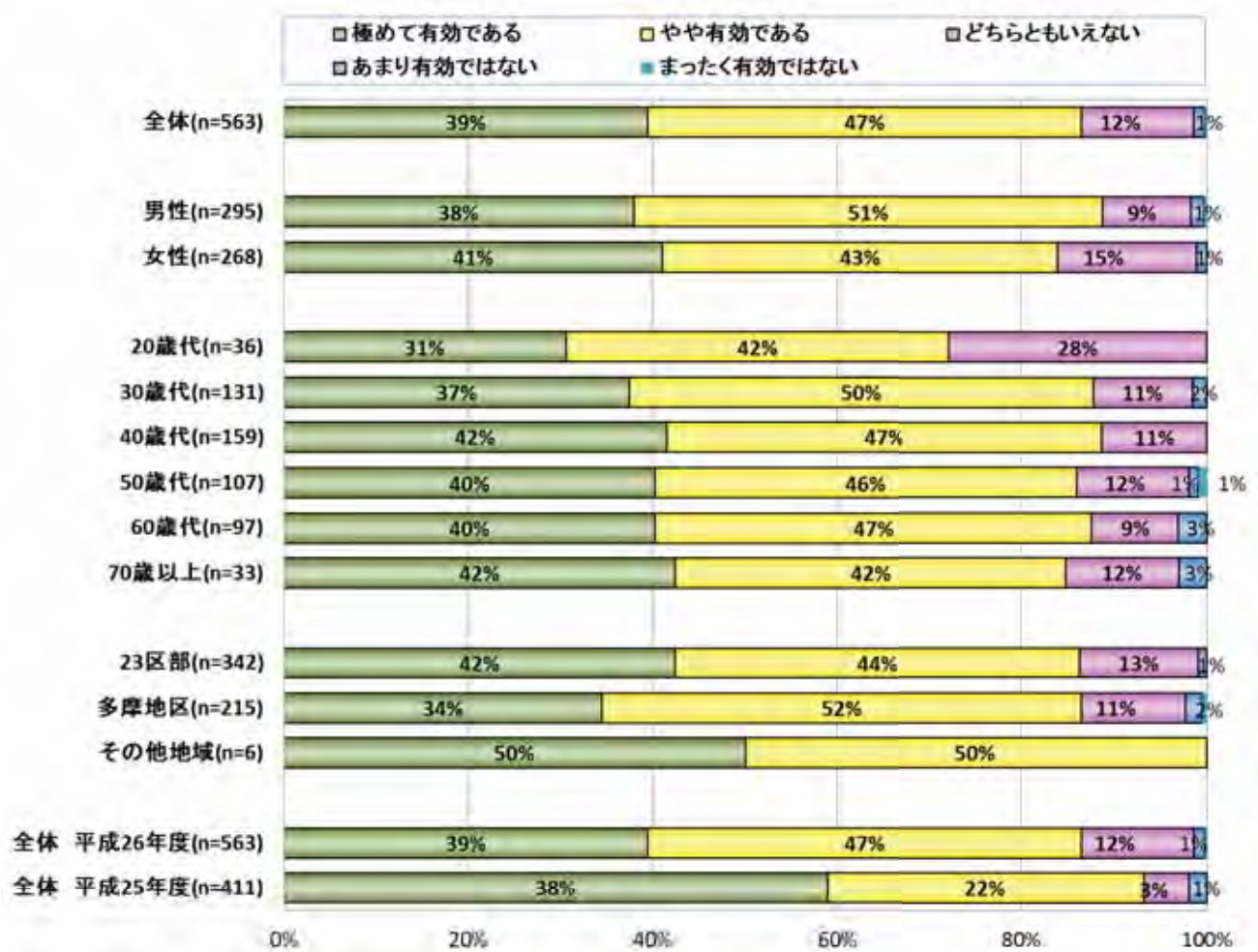


## 1-12. 豪雨対策下水道緊急プランへの期待度〔全体〕

- ◆ 「豪雨対策下水道緊急プラン」への期待度について、有効である（極めて有効である+やや有効である）と回答したものは、全体では86%、男性では89%、女性では84%と高い結果となった。年代別では、40歳代が89%と最も高く、30歳代と60歳代では87%、20歳代では73%と最も低い結果となった。
- ◆ 地域べつで見ると、23区、多摩地区ともに86%と同ポイントとなった。

Q11 「豪雨対策下水道緊急プラン」の概要版をご覧いただき、以下の中から該当する選択肢を一つだけお選びいただき、あなたの評価をお答えください。（単一回答）

図1-12 「豪雨対策下水道緊急プラン」への期待度〔全体〕



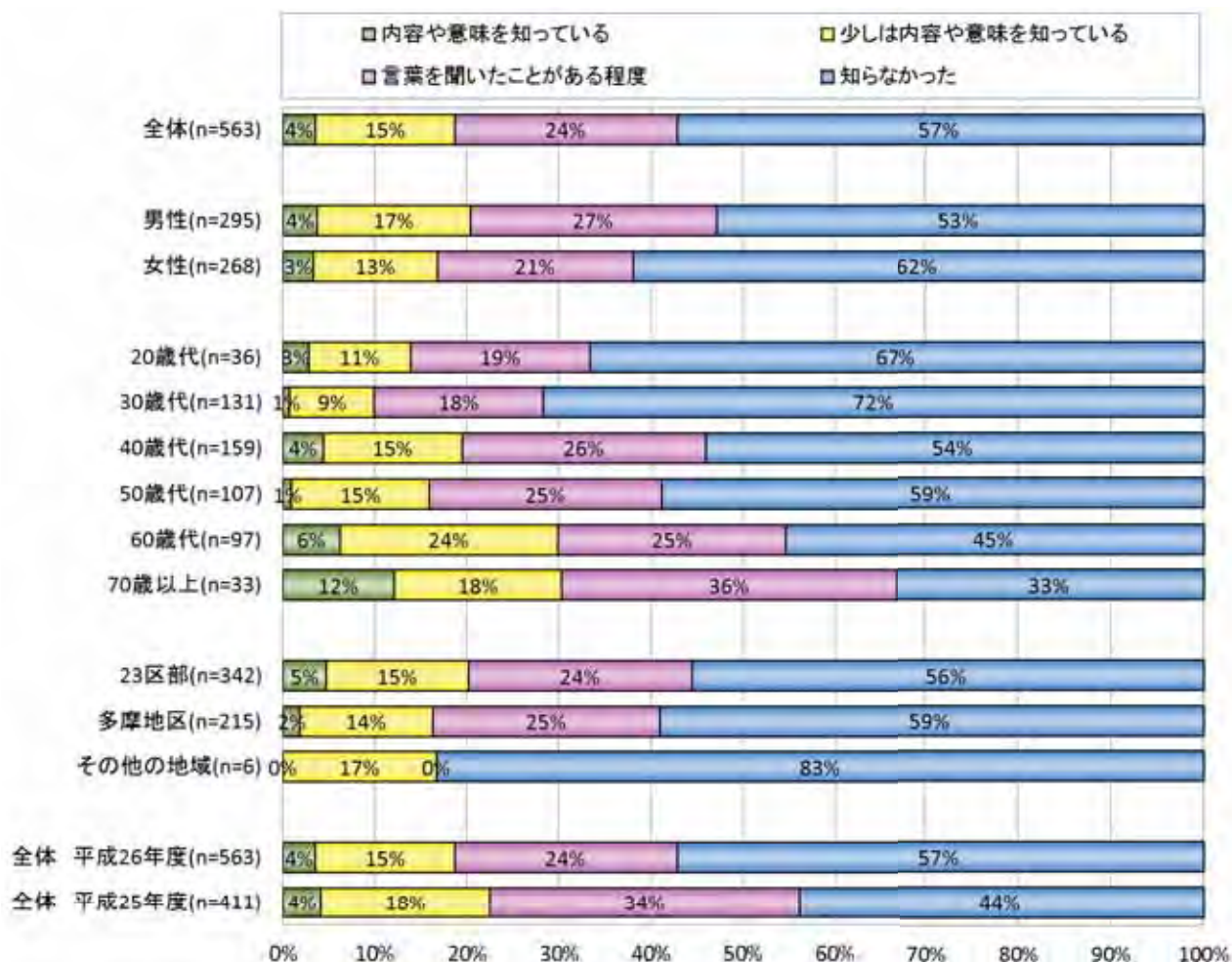
## 2. 家庭での浸水への対策

### 2-1. 「浸水対策強化月間」の認知度〔全体〕

- ◆ 浸水対策強化月間の認知度については、「内容や意味を知っている」が4%、「少しは内容や意味を知っている」が15%、「言葉を聞いたことがある程度」が24%となっており、全体で43%となっている。
- ◆ 性別で見ると、「内容や意味を知っている」「少しは内容や意味を知っている」「言葉を聞いたことがある程度」の合計は、男性が48%、女性が37%であり、男性の方が11ポイント高かった。
- ◆ 年代別では、20歳代、30歳代と50歳代を除いた年代では年齢が高くなるほど認知度が高まる傾向が顕著であり、最も多い70歳以上の66%に対して、30歳代は28%と38ポイント低かった。
- ◆ 地域別で見ると、23区が44%、多摩地区が41%で、23区の方が3ポイント高かった。
- ◆ 平成25年度調査と比較すると、全体の認知度は56%から13ポイント低くなった。

Q12. あなたは、「浸水対策強化月間」についてどのくらいご存知ですか。以下の選択肢の中から該当するものを一つだけお選びください。（単一回答）

図2-1 「浸水対策強化月間」の認知度



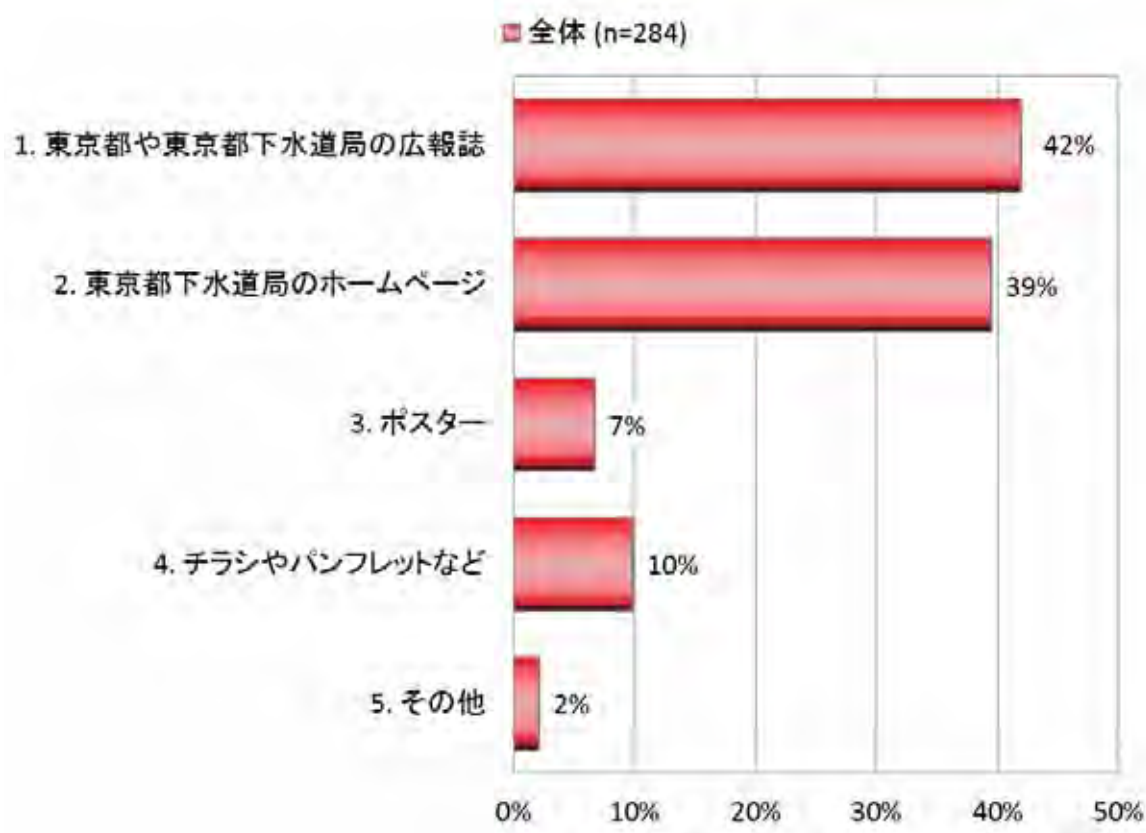
## 2-2. 「浸水対策強化月間」の認知経路〔全体〕

- ◆ 「浸水対策強化月間」の認知経路については、「1.東京都や東京都下水道局の広報誌」が42%と最も高く、次いで、「2.東京都下水道局のホームページ」が39%「3.ポスター」が7%、「4.チラシやパンフレットなど」が10%となっている。

Q13. 上記Q12で、「1～3」を選択した人におたずねします。

「浸水対策強化月間」をどこで知りましたか。以下の選択肢の中から、以下の選択肢の中から、該当するものをいくつでもお答え下さい（複数回答）。

図2-2 「浸水対策強化月間」の認知経路〔全体〕



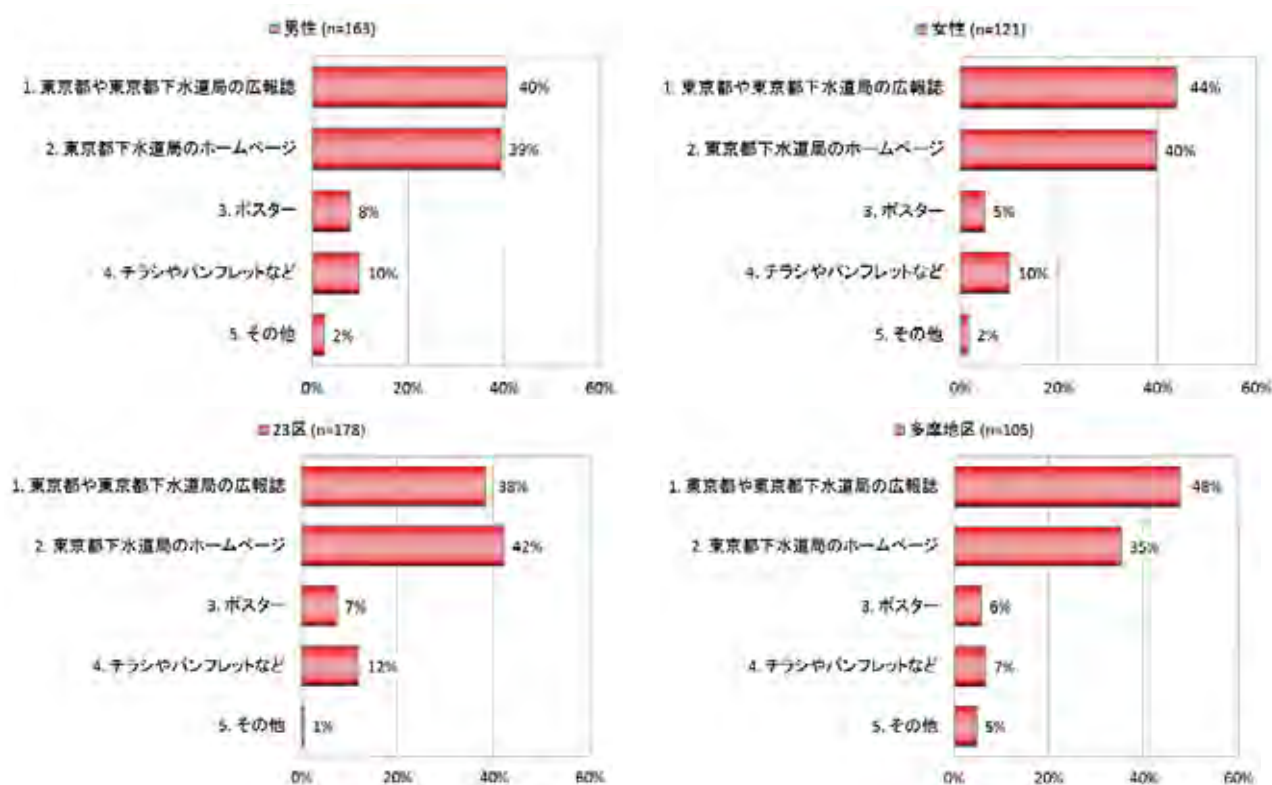
## 2-3. 「浸水対策強化月間」の認知経路〔性別・地域別〕

- ◆ 「浸水対策強化月間」の認知経路について性別で見ると、「1.東京都や東京都下水道局の広報誌」は男性が40%、女性が44%と女性の方が4ポイント高く、「2.東京都下水道局のホームページ」は男性が39%、女性が40%と女性の方が1ポイント高かった。
- ◆ 地域別で見ると、「1.東京都や東京都下水道局の広報誌」は23区が38%、多摩地区が48%と多摩地区の方が10ポイント高く、「2.東京都下水道局のホームページ」は23区が42%、多摩地区が35%と23区の方が7ポイント高かった。

Q13. 上記Q12で、「1～3」を選択した人におたずねします。

「浸水対策強化月間」をどこで知りましたか。以下の選択肢の中から、以下の選択肢の中から、該当するものをいくつでもお答え下さい（複数回答）。

図2-3 「浸水対策強化月間」の認知経路〔性別・地域別〕





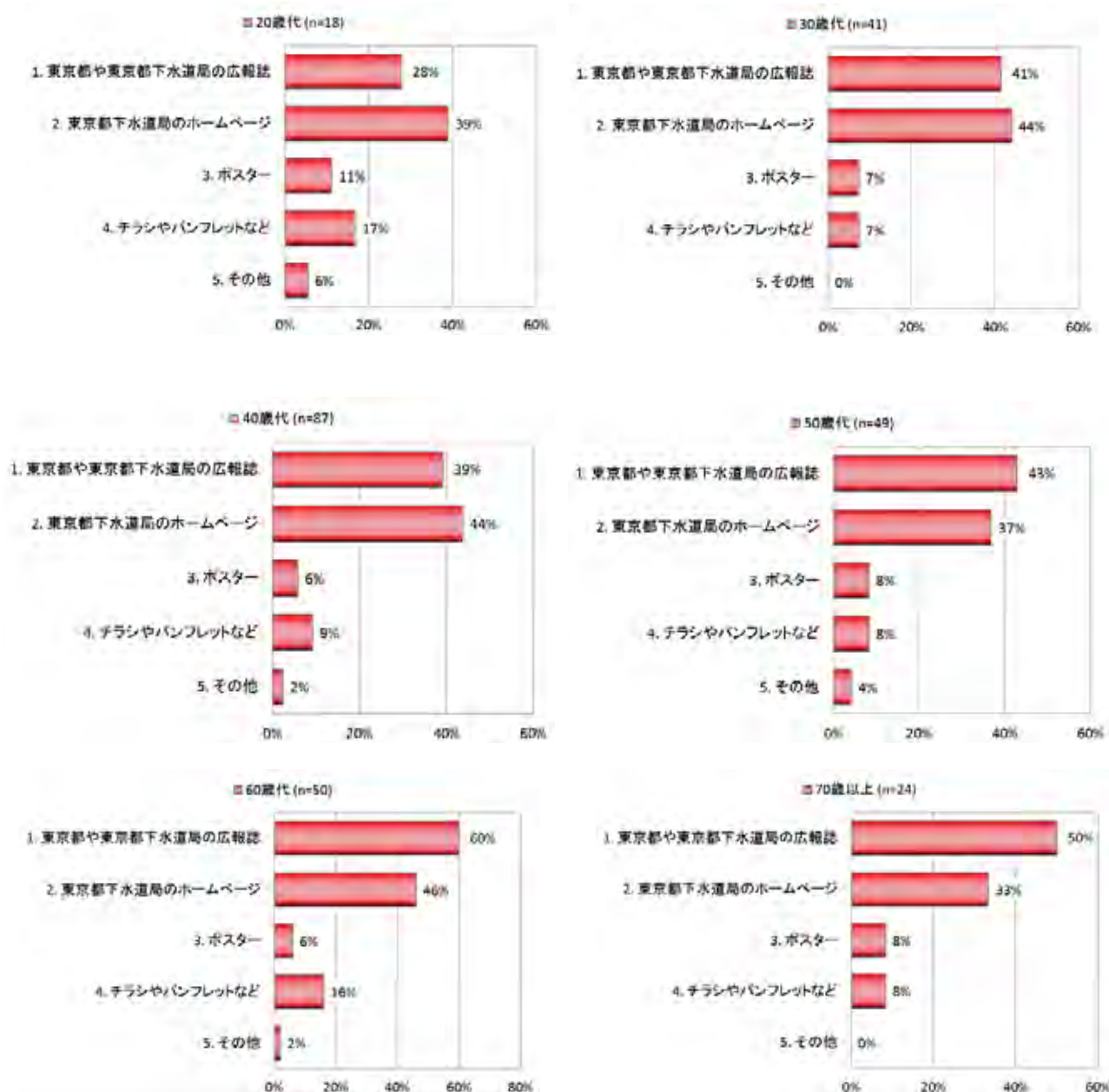
## 2-4. 「浸水対策強化月間」の認知経路〔年代別〕

- ◆ 「浸水対策強化月間」の認知経路について年代別でみると、「1.東京都や東京都下水道局の広報誌」は20歳代が28%、30歳代が41%、40歳代が39%、50歳代が43%、60歳代が60%、70歳以上が50%となっており、「2.東京都下水道局のホームページ」は20歳代が39%、30歳代が44%、40歳代が44%、50歳代が37%、60歳代が46%、70歳以上が33%となっている。
- ◆ 20歳代、30歳代と40歳代では他の年代よりホームページをみる傾向が高く、70歳代では他の年代よりパソコン等使ってホームページを見る傾向が少ないことが分かる。

Q13. 上記Q12で、「1～3」を選択した人におたずねします。

「浸水対策強化月間」をどこで知りましたか。以下の選択肢の中から、以下の選択肢の中から、該当するものをいくつでもお答え下さい（複数回答）。

図2-4 「浸水対策強化月間」の認知経路〔年代別〕



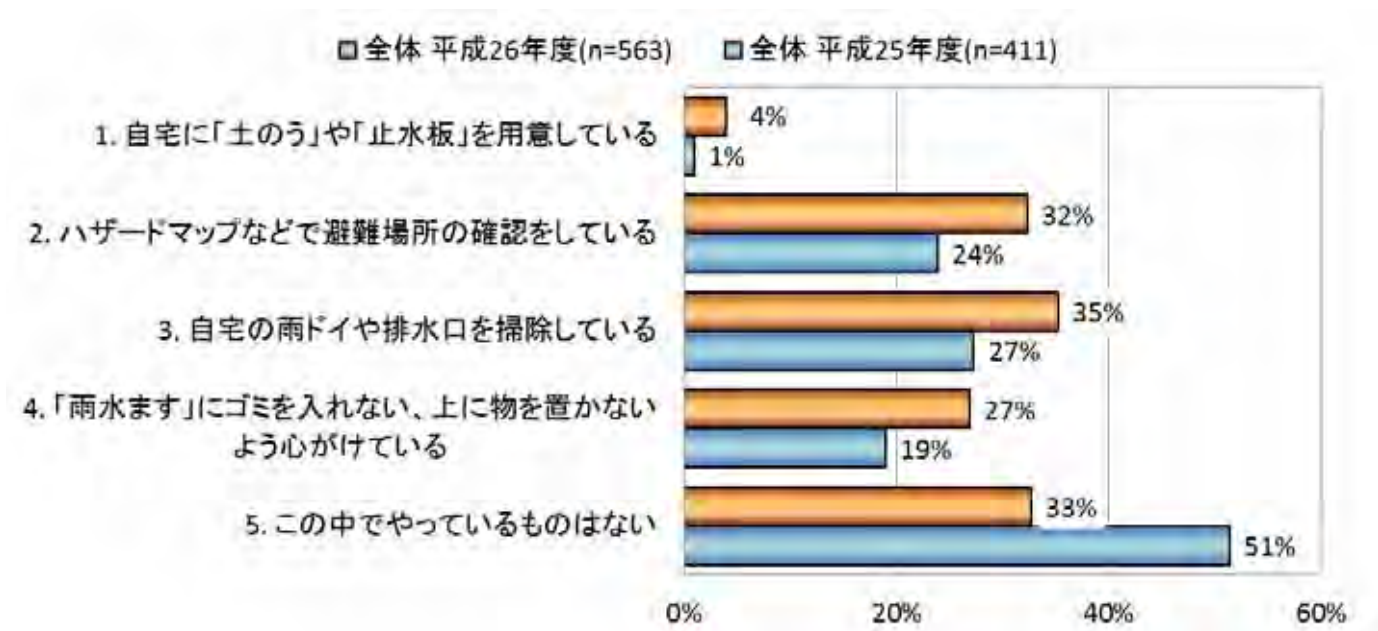
## 2-5. ご家庭での浸水対策について〔全体〕

- ◆ 家庭での浸水対策については、「3.自宅の雨ドイや排水口を掃除している」が35%と最も高く、次いで「2.ハザードマップなどで避難場所の確認をしている」が32%、「4.「雨水ます」にゴミを入れない、上に物を置かないよう心がけている」が27%という結果になった。
- ◆ 平成25年度調査との比較では、「3.自宅の雨ドイや排水口を掃除している」については27%から8ポイント、「2.ハザードマップなどで避難場所の確認をしている」については24%から8ポイント高くなっており、「4.「雨水ます」にゴミを入れない、上に物を置かないよう心がけている」については19%から8ポイント高くなり、「5. この中でやっているものはない」については51%から18ポイント低くなった。平成25年度調査に比較して、浸水対策の実施割合は高くなった。

Q14. 次に「浸水への備え」についておうかがいします。

次の中で、あなたが日頃から行っている「浸水への備え」はありますか。以下の選択肢のうち、「1～4」については該当するものをいくつでもお答え下さい（複数回答）。「1～4」で該当するものがない場合は、「5」をお選びください。

図2-5 ご家庭での浸水対策について〔全体〕



## 2-6-1. ご家庭での浸水対策について〔項目別〕

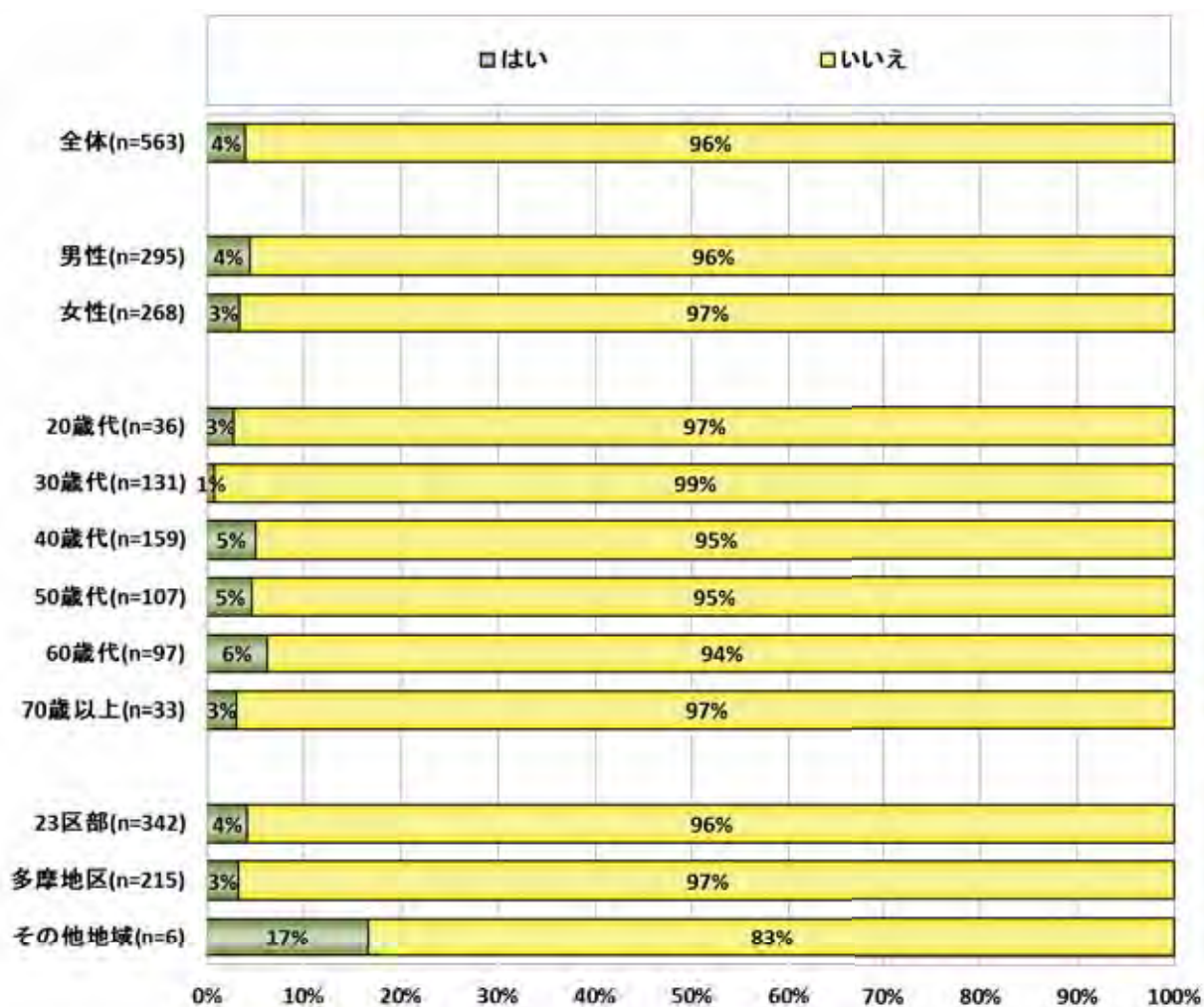
- ◆ 「1. 自宅に「土のう」や「止水板」を用意している」について、全体では「はい」が4%、「いいえ」が96%と高い結果となった。
- ◆ 性別で見ると、「はい」は男性が4%、女性が3%となっており、男性が1ポイント高くなった。
- ◆ 年代別では、30歳代が1%、70歳以上が3%となり、年代があがるにつれポイントは高くなった。
- ◆ 地域別では、「はい」は23区部で4%、多摩地区で3%と23区部が1ポイント高くなった。

Q14. 次に「浸水への備え」についておうかがいします。

次の中で、あなたが日頃から行っている「浸水への備え」はありますか。以下の選択肢のうち、「1～5」については該当するものをいくつでもお答え下さい（複数回答）。「1～4」で該当するものがない場合は、「5」をお選びください。

### 1. 自宅に「土のう」や「止水板」を用意している

図2-6-1 ご家庭での浸水対策について〔項目別〕



## 2-6-2. ご家庭での浸水対策について〔項目別〕

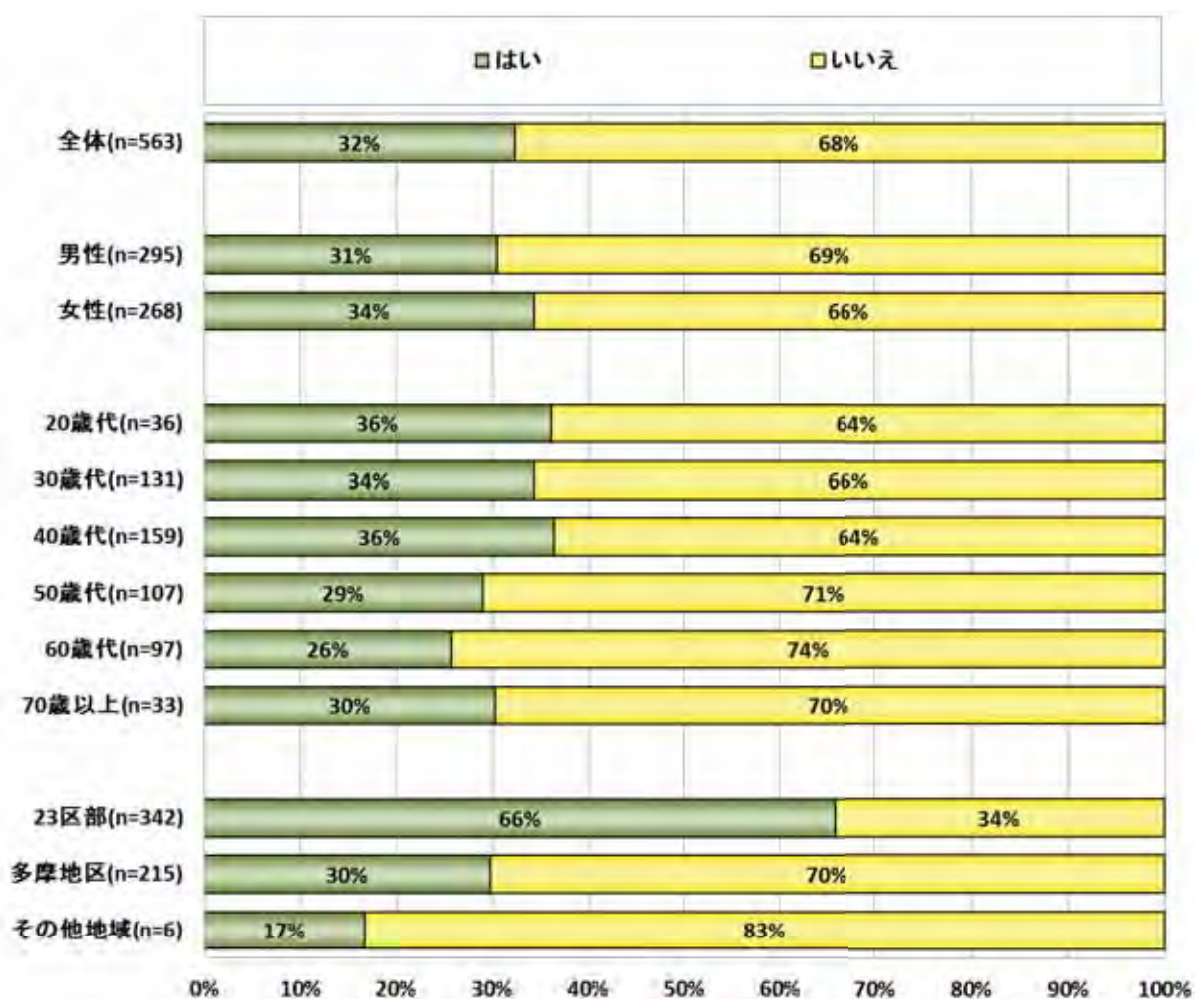
- ◆ 「2. ハザードマップなどで避難場所の確認をしている」について、全体では「はい」が32%、「いいえ」が68%と高い結果となった。
- ◆ 性別で見ると、「はい」は男性が31%、女性が34%となっており、女性が3ポイント高くなった。
- ◆ 年代別では、20歳代と40歳代が36%でもっとも高く、60歳代では26%となり10ポイント低い結果となった。
- ◆ 地域別では、「はい」は23区部で66%、多摩地区で30%と23区部が33ポイント高くなった。

Q14. 次に「浸水への備え」についておうかがいします。

次の中で、あなたが日頃から行っている「浸水への備え」はありますか。以下の選択肢のうち、「1～5」については該当するものをいくつでもお答え下さい(複数回答)。「1～4」で該当するものがない場合は、「5」をお選びください。

### 2. ハザードマップなどで避難場所の確認をしている

図2-6-2 ご家庭での浸水対策について〔項目別〕





### 2-6-3. ご家庭での浸水対策について〔項目別〕

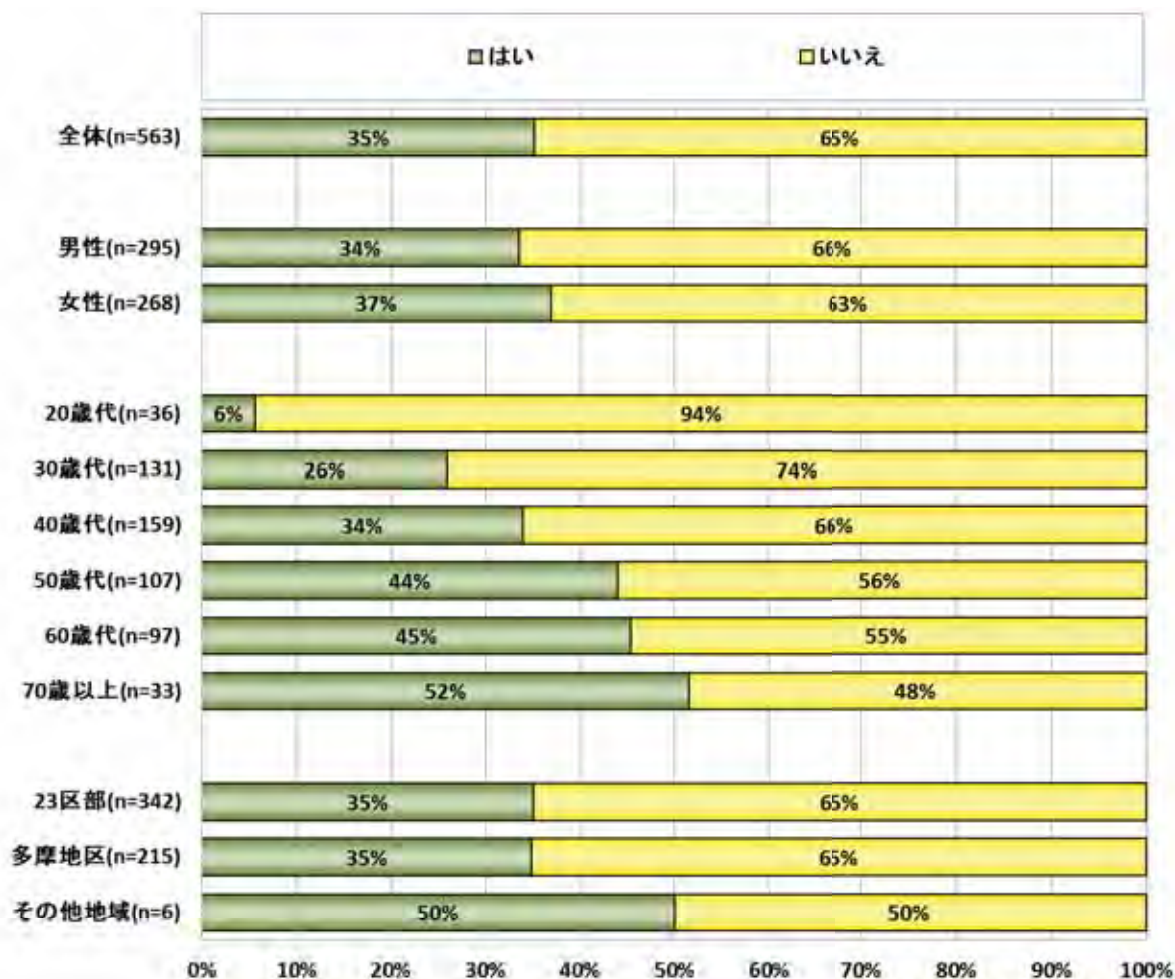
- ◆ 「3. 自宅の雨ドイや排水口を掃除している」について、全体では「はい」が35%、「いいえ」が65%と高い結果となった。
- ◆ 性別で見ると、「はい」は男性が34%、女性が37%となっており、女性が3ポイント高くなった。
- ◆ 年代別では、20歳代が6%となっており、年代が上がるにつれポイントが高くなる結果となった。
- ◆ 地域別では、「はい」は23区部、多摩地区ともに35%と同ポイントとなった。

Q14. 次に「浸水への備え」についておうかがいします。

次の中で、あなたが日頃から行っている「浸水への備え」はありますか。以下の選択肢のうち、「1～5」については該当するものをいくつでもお答え下さい（複数回答）。「1～4」で該当するものがない場合は、「5」をお選びください。

#### 3. 自宅の雨ドイや排水口を掃除している

図2-6-3 ご家庭での浸水対策について〔項目別〕



## 2-6-4. ご家庭での浸水対策について〔項目別〕

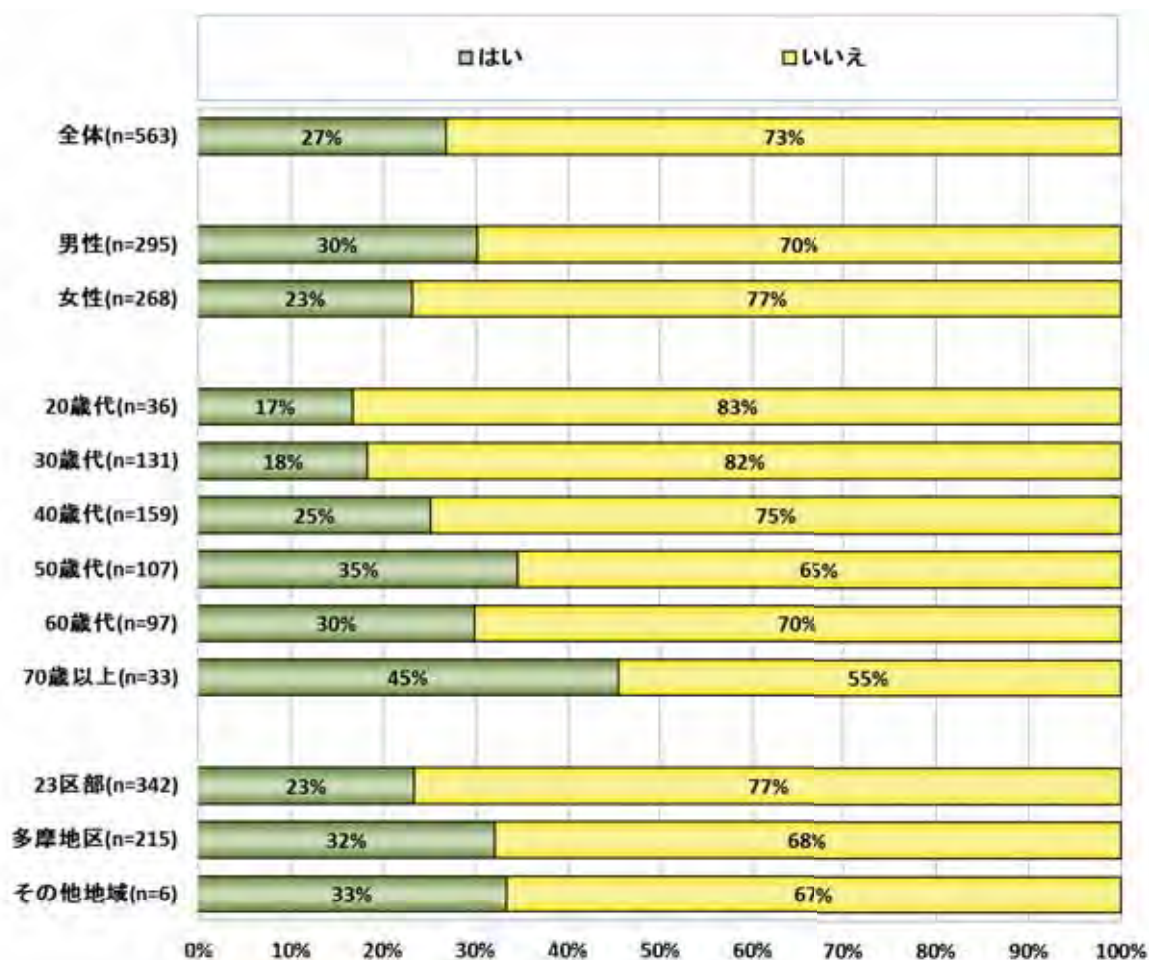
- ◆ 「4.「雨水ます」にゴミを入れない、上に物を置かないよう心がけている」について、全体では「はい」が27%、「いいえ」が73%と高い結果となった。
- ◆ 性別で見ると、「はい」は男性が30%、女性が23%となっており、男性が7ポイント高くなった。
- ◆ 年代別では、60歳代が30%となっており、20歳代が17%で年代が上がるにつれポイントが高くなる結果となった。
- ◆ 地域別では、「はい」は23区部、多摩地区ともに同ポイントとなった。

Q14. 次に「浸水への備え」についておうかがいします。

次の中で、あなたが日頃から行っている「浸水への備え」はありますか。以下の選択肢のうち、「1～5」については該当するものをいくつでもお答え下さい(複数回答)。「1～4」で該当するものがない場合は、「5」をお選びください。

### 4. 「雨水ます」にゴミを入れない、上に物を置かないよう心がけている

図2-6-4 ご家庭での浸水対策について〔項目別〕



## 2-6-5. ご家庭での浸水対策について〔項目別〕

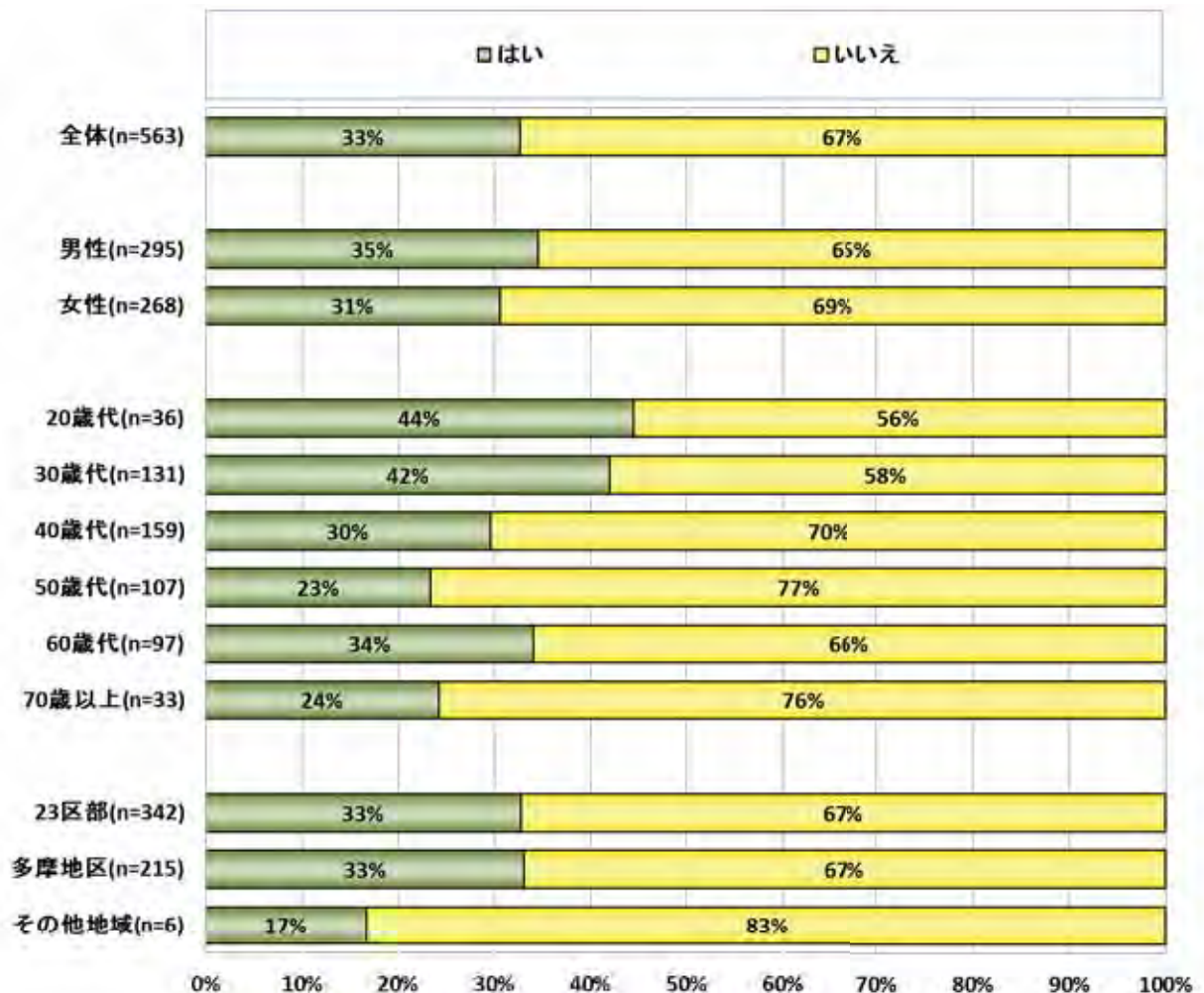
- ◆ 「5. この中でやっているものはない」について、全体では「はい」が33%、「いいえ」が67%と高い結果となった。
- ◆ 性別で見ると、「はい」は男性が35%、女性が31%となっており、男性が4ポイント高くなった。
- ◆ 年代別では、20歳代が44%となっており、50歳代が23%で20歳代が21ポイント高い結果となった。
- ◆ 地域別では、「はい」は23区部、多摩地区ともに33%と同ポイントとなった。

Q14. 次に「浸水への備え」についておうかがいします。

次の中で、あなたが日頃から行っている「浸水への備え」はありますか。以下の選択肢のうち、「1～5」については該当するものをいくつでもお答え下さい(複数回答)。「1～4」で該当するものがない場合は、「5」をお選びください。

5. この中でやっているものはない

図2-6-5 ご家庭での浸水対策について〔項目別〕



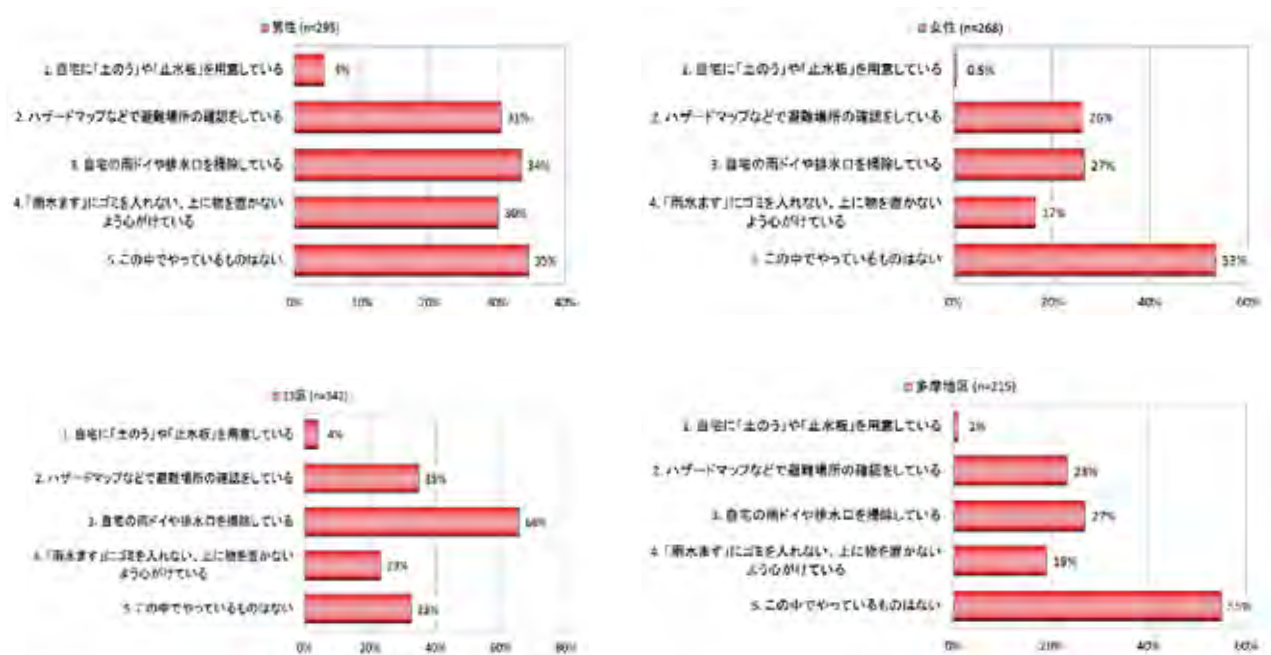
## 2-6. ご家庭での浸水対策について〔性別・地域別〕

- ◆ 家庭での浸水対策について性別でみると、「2.ハザードマップなどで避難場所の確認をしている」は男性が31%、女性が26%と男性の方が5ポイント高く、「3. 自宅の雨ドイや排水口を掃除している」は男性が34%、女性が27%と男性の方が7ポイント高く、「4. 「雨水ます」にゴミを入れない、上に物を置かないよう心がけている」は男性が21%、女性が17%と男性の方が4ポイント高くなっている。「6. 「浸水への備え」を特におこなっていない」については、男性が49%、女性が53%となっており、全体的に男性の方が行動で浸水対策を行っているという結果となっている。
- ◆ 地域別でみると、「3. 自宅の雨ドイや排水口を掃除している」は23区では66%、多摩地区では27%と23区で39ポイント高く、「5. この中でやっているものはない」については、23区が33%、多摩地区が55%と多摩地区の方が22ポイント高くなった。

Q14. 次に「浸水への備え」についておうかがいします。

次の中で、あなたが日頃から行っている「浸水への備え」はありますか。以下の選択肢のうち、「1～4」については該当するものをいくつでもお答え下さい（複数回答）。「1～4」で該当するものがない場合は、「5」をお選びください。

図2-6 ご家庭での浸水対策について〔性別・地域別〕



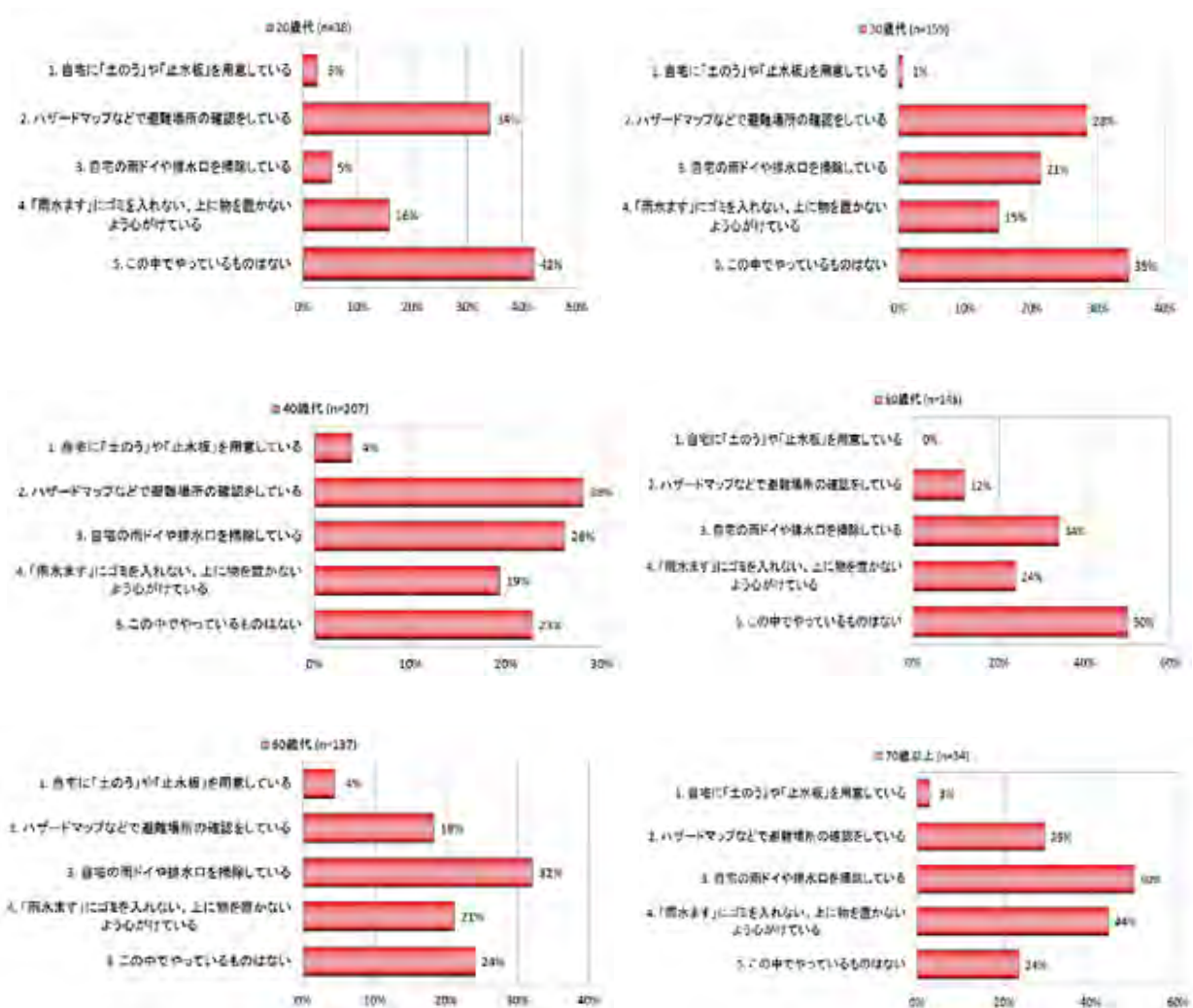


## 2-7. ご家庭での浸水対策について〔年代別〕

- ◆ 家庭での浸水対策について年齢別でみると、20歳代、30歳代、50歳代では「5.この中でやっているものはない」が最も高く、40歳代では「2.ハザードマップなどで避難場所の確認をしている」、60歳代、70歳以上では「3.自宅の雨ドイや排水口を掃除している」が最も高くなった。20歳代、30歳代と50歳代を除いて、年齢が高くなるほど実施割合も高くなる傾向がみえ、最も高い70歳以上は50%、最も低いのは20歳代で5%である。

Q14. 次の中で、あなたが日頃から行っている「浸水への備え」はありますか。以下の選択肢のうち、「1～4」については該当するものをいくつでもお答え下さい（複数回答）。「1～4」で該当するものがない場合は、「5」をお選びください。

図2-7 ご家庭での浸水対策について〔年代別〕

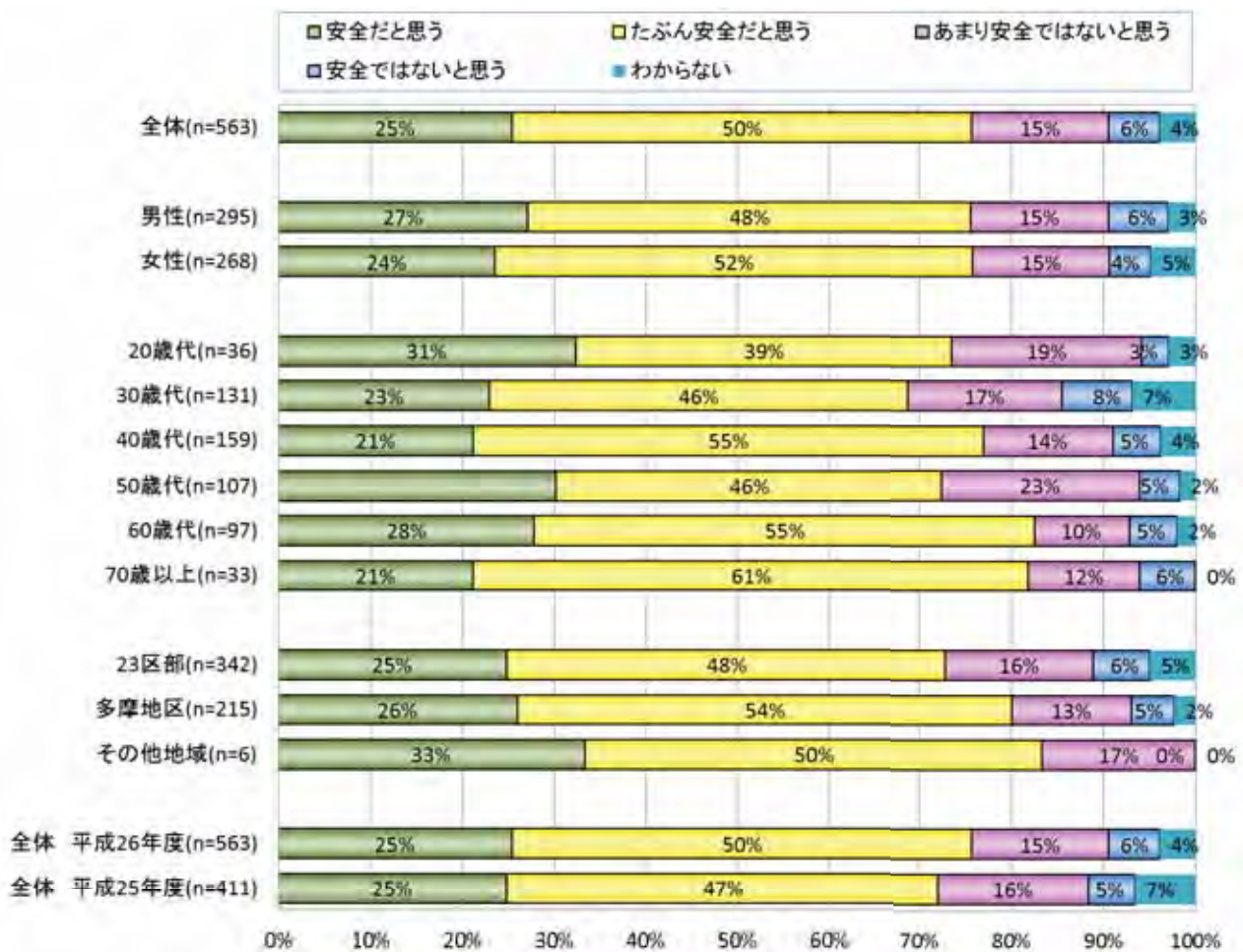


## 2-8. ご家庭での浸水対策の安全性

- ◆ 家庭での浸水対策の安全性について意見を聞いたところ、安全だと思う（安全だと思う+たぶん安全だと思う）が75%となっている。
- ◆ 性別でみると、安全だと思う（安全だと思う+たぶん安全だと思う）は、男性が75%、女性が76%と、女性が1ポイント高くなった。
- ◆ 年代別でみると、30歳代と50歳代を除いて、年齢が高くなるほど安全だと思う（安全だと思う+たぶん安全だと思う）が高くなる傾向にあり、20歳代が70%に対して、60歳代が83%であった。
- ◆ 地域別でみると、安全だと思う（安全だと思う+たぶん安全だと思う）は、23区が73%、多摩地区が80%と多摩地区の方が7ポイント高くなっている。
- ◆ 平成25年度調査と比較して、安全だと思う（安全だと思う+たぶん安全だと思う）については72%から3ポイント高くなった。

Q15. あなたのお宅は、大雨による浸水に対して安全だと思いますか。以下の選択肢の中から、該当するものを一つだけお選びください。（単一回答）

図2-8 ご家庭での浸水対策の安全性

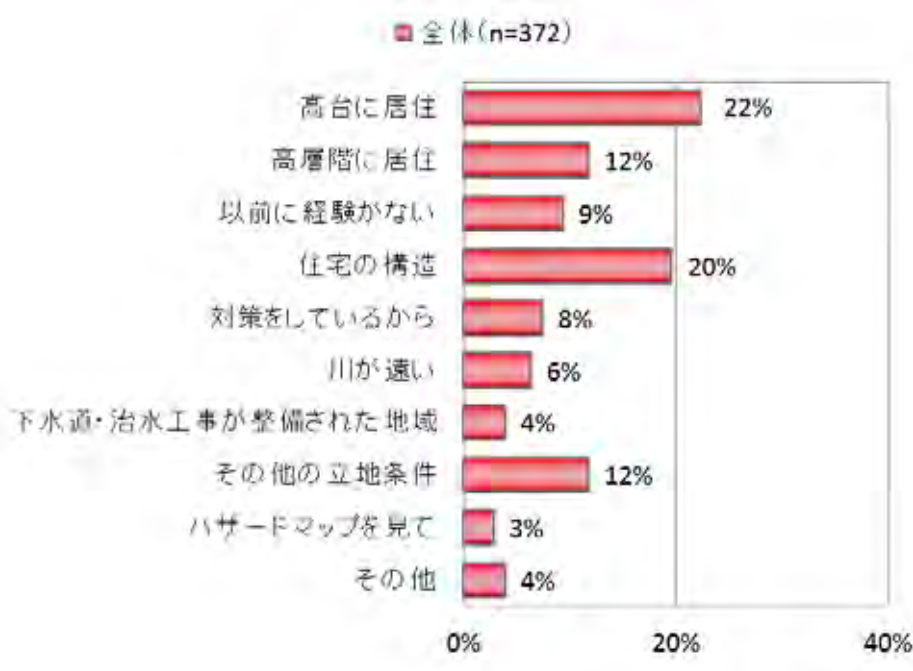


## 2-9. ご家庭での浸水対策の安全性に対する理由

- ◆ 「安全だと思う」「たぶん安全だと思う」と回答した理由については、「高台に居住」が50%と最も高く、次いで「高層階に居住」が39%であった。
- ◆ 「あまり安全ではないと思う」「安全ではないと思う」と回答した理由については、「川が近い」が48%と最も高かった。
- ◆ 以下に、「浸水対策の安全性」への回答の理由について、一部紹介する。

Q16. 上記Q14で、大雨による浸水に対する安全について、あなたがそのようにお答えになった理由を教えてください（自由回答）。

図2-9-1 ご家庭での浸水対策の安全性に対する理由  
(安全だと思う、たぶん安全だと思う)



### 1. 高台に居住

- いわゆる富士見台という、冬期には今でも自宅の2階の窓から富士山が眺められる場所（極端な高台ということではなく、緩やかな高台です。）に住居があるため。（60歳代男性、23区）
- 周りより比較的到高台にあり、家の周りに木が多くあまり水たまりを見たことがないから。（女性 60歳代女性、多摩地区）
- 周りより高い位置（海拔4.2m）にあり、雨水は周りに流れていく。マンションのまた、在住している場所から離れたところでも、治水はかなり進んできている。（50歳代男性、23区）
- 自宅は勾配になっている土地であること、高台にあること、近隣に大規模な団地があり貯水池が数か所あることから安全だと思いました。（40歳代女性、多摩地区）

## 2. 高層階に居住

- 大雨による浸水については、現在の住まいが1 2階部分にあり浸水の心配がないため。また、比較的住まいの住所が地区の高台にあるため。(70歳以上男性、23区)
- マンションの6階に居住している為、浸水に対して、安全であると思っている。(50歳代女性、23区)
- 高層住宅に住んでいるから(50歳代女性、多摩地区)
- 自宅はマンションの上層階なので浸水はないと思うが、建物自体も過去浸水の履歴がないため(50歳代男性、多摩地区)

## 3. 以前に経験がない

- 今まで被害経歴がない。豪雨でも水引が良い。(70歳以上男性、多摩地区)
- 20年以上住んでいるが浸水した事がないため。(60歳代男性、多摩地区)
- 近くに浅川が流れているが、氾濫したということを知ることがないため。(40歳代男性、多摩地区)
- 今まで住んでいて水害にあったことがないから。何と無く、そうってしまう。(30歳代女性、23区)

## 4. 住宅の構造

- あまり、参考にはならないが、我が家は1階は車庫で2階からが家にしました、近くに中川があるのでまんがいちの為に備えている。(40歳代男性、23区)
- マンションの5Fなので直接、水を被ることはないと思う。(60歳代女性、23区)
- 住まいが一階ではないので、浸水による被害は少なそうなので特に問題はないかと思います。(30歳代女性、多摩地区)
- 団地の4階だから。(20歳代男性、多摩地区)

## 5. 対策をしているから

- 少し離れたところにある川は都がきちんと整備をしているので。(60歳代女性、23区)
- 川から離れていること、隣接する道路が傾斜していることなどから、大雨が降っても雨水が滞留す(40歳代男性、23区)
- 家が新しいから設備に詰まりは無いだろうな、という憶測と、排水口近くに、ゴミを含め何も無い状態をこころがけている。(30歳代女性、多摩地区)
- 浸水対策をやっていた。(40歳代男性、多摩地区)

## 6. 川が遠い

- 川が近くにないから 土地が低くないから。(50歳代女性、23区)
- 居住している近隣に河川がなく、比較的高台にあるという地形的に優位な点と過去10年間、大雨でも道路が冠水したことがないという経験から、安全だと考えました。(50歳代女性、23区)
- 近くに川がなく自宅建物が私道より若干高くなっていることが安全だと思う。(40歳代女性、多摩地区)
- 自宅周辺には河川も無いし、浸水予防として基礎を若干上げているから。(40歳代男性、多摩地区)



## 7. 下水道・治水工事が整備された地域

- 昭和40年代に呑川が氾濫したが最近整備され、また、自宅は数段の階段があるので、まずは安心と思っている。但し、ここ数年の50mm以上の大雨がこの付近ではないので多少不安がある。(70歳以上男性、23区)
- 最近板橋区や隣接する練馬区で大雨に対する対策が進み、毎時100ミリまでは対応できると思っている。一階なので、区から土嚢をもらって、庭に準備している。またいざというとき、サッシの窓に水の入った大きなゴミ袋をおく、など家庭で出来る対策を準備している。(60歳代女性、23区)
- 大規模分譲マンションの二階ですが、多摩川の防波堤が近年、新設されたので。(50歳代女性、多摩地区)
- 雨水排水に関しては整備されていて、また、高台に住宅があるため。(50歳代男性、多摩地区)

## 8. その他の立地条件

- 傾斜地にあるため、雨水が溜まらない。(50歳代男性、23区)
- 避難先(役所より約500m地点)の近くに住んでいる。(40歳代女性、23区)
- 宅地が道路より少し高いので雨水は侵入してこない。(60歳代男性、多摩地区)
- 中央線と野川の間にあって、ゆるい南斜面で水はけが良い。(60歳代男性、多摩地区)

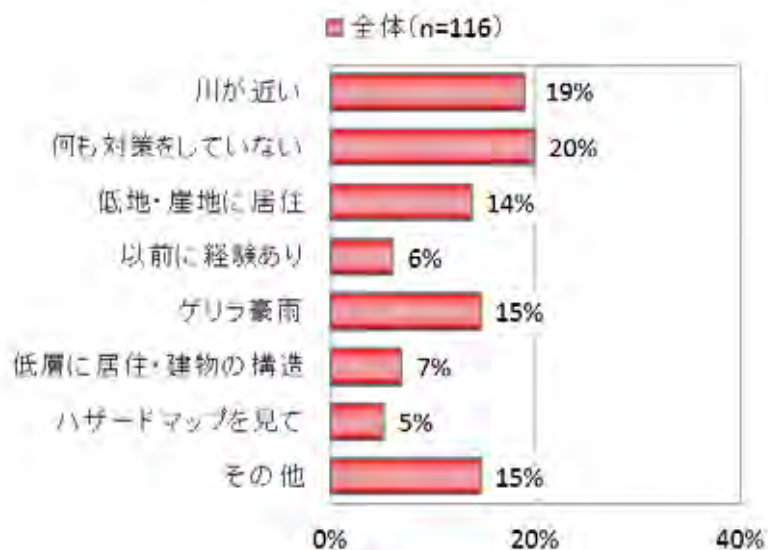
## 9. ハザードマップを見て

- ハザードで調べた時に浸水危険地域ではなかったと思うし、土地も低地や川の近くではないので。でも集中豪雨によって下水管があふれてしまう危険性まではわかりません。地域の下水管の状況を知らない。(40歳代女性、多摩地区)
- ハザードマップをチェックした。(60歳代男性、多摩地区)
- ハザードマップによると浸水の心配は無い。(50歳代女性、多摩地区)
- 比較的高い位置にあり、ハザードマップでも、危険度が低く、マンションの2階以上に居住しているため。(30歳代女性、23区)

## 10. その他

- 常に天気予報には注意しており、大雨の予報が出た時には特に排水状況を確認するようにしている。(70歳以上女性、多摩地区)
- ピンとこないため。(40歳代女性、23区)
- 漠然とそう思っている(40歳代女性、23区)

図2-9-2 ご家庭での浸水対策の安全性に対する理由  
(あまり安全ではないと思う、安全ではないと思う)



### 1. 川が近い

- 家の横に川が流れていて以前土手が崩れていたのが不安。(20歳代女性、23区)
- 我が家は、多摩川の河口近くにあるため、豪雨時に多摩川が氾濫する恐れがあり、たつ海に面した平地であるので、浸水被害の危険性がある。(60歳代男性、23区)
- 横に川があるので、地盤が緩いと思うから(60歳代女性、多摩地区)
- 多摩川が近いので、増水時が心配なため。(30歳代男性、多摩地区)

### 2. 何も対策をしていない

- 大雨の時に、自宅前が水であふれる時があるから。大きな被害が出ていないため、地域として対策に取り組んでいないから。(30歳代男性、23区)
- 最近の雨量の増加を前提には、地域のインフラ整備ができているとは思えないため。(50歳代女性、23区)
- 土嚢などの準備をしていない。(30歳代女性、多摩地区)
- 実際浸水被害が起こった際、どのような備えが必要なのかよく解らないため。(20歳代男性、多摩地区)

### 3. 低地・崖地に居住

- 低い土地なので。(30歳代女性、23区)
- 江戸川区は「ゼロメートル地帯」であり、土地が低い場所が多く、大雨が降ると道路にはすぐに水がたまってしまふから。(20歳代女性、23区)
- うちには半地下ガレージがあり、台風で浸水したことがあり普段から土嚢をつんでおり、排水に気をつけないといけないため大雨のときはかなり緊張感がある。(40歳代女性、多摩地区)
- 周囲が高台になっていて、雨が集まって来る地形になっているため。(60歳代男性、23区)

#### 4. 以前に経験あり

- 「仙川」沿いの低地に有ります。この川が1958年の「狩野川台風」で氾濫し自宅が床下浸水しました。当時は川幅も狭く直角に近い曲りも有ったが、浸水の数年後に、川幅を広げ、カーブを緩やかにする改修が行われ、その後氾濫は起きていない。しかし近年では時間50mmの降雨はもとより、時間80mm、100mmの降雨も珍しくなくなってきている。その様な降雨が長時間続いた場合大丈夫なのか？と言う一抹の不安がある。いずれにしろ、川が近くを流れていると言う事は、100%安全とは言い切れないと思う。（60歳代男性、23区）
- 数年前に近所の川が氾濫したため。（40歳代男性、23区）
- 今年の雪で、近所の家がやや浸水してしまったので、家にも来る可能性があると思う。その後特に道路の対策をしていないため。（30歳代女性、多摩地区）
- 家の周りが水浸しになる（50歳代男性、多摩地区）

#### 5. ゲリラ豪雨

- 最近想定を超えるゲリラ豪雨があるので心配。とても安全とは言えないと思う。（50歳代男性、23区）
- 先日のような大量の雹が降ることもあるのでわからないが、ますなどの掃除をしたり浸水しないようにできることがあれば考えたいと思う。（60歳代女性、23区）
- 最近は異常気象で、ゲリラ豪雨なども増え、もっと確実な安全対策が必要になってきていると思うので。（30歳以上女性、多摩地区）
- 大雨で、道路が池ようになっていた。（40歳代男性、多摩地区）

#### 6. 低層に居住・建物の構造

- 家の構造上すぐ床下に水が溜まってしまうため。（30歳代女性、23区）
- アパートの1Fなのが、少し心配。（30歳代女性、多摩区）
- マンション地下階に関しては浸水する可能性もあるので安全とは言いきれない。（40歳代女性、23区）
- マンションの1階なので心配。（30歳代女性、23区）

#### 7. ハザードマップを見て

- 海拔0メートル地帯と呼ばれていて海面より低い地域となっているため、昔の浸水被害の話を聞かされており、ハザードマップを見てもブルーの地域となっているため、安全ではないと思う。（40歳代男性、23区）
- 住んでいる家が地域の中で一番低い場所付近にあり、大雨が発生した場合板橋区浸水ハザードMAPにも数メートル浸水する事が表示されているため。（40歳代女性、23区）
- ハザードマップ上、標高が低く浸水の可能性が高い場所だから（50歳代男性、多摩地区）
- 居住地が境川の洪水ハザードマップで危険地域に当たり、南町田自主防災でも注意喚起が行われているため、常に不安感がある。調整池など対策は取られていますが、500mm以上の雨量には浸水が予想されているためゲリラ豪雨など心配している。（50歳代女性、多摩地区）

## 8. その他

- 地域の地形が良く分からないので「不安」が先にたってしまう。(70歳以上男性、23区)
- 側溝を掃除しているが、大雨の際に側溝のキャパシティーを越えると思う。側溝が小さすぎる。(20歳代女性、多摩地区)
- 排水溝に落ち葉がたまっている。掃除したいが排水溝の蓋の開け方が分からず、手を加えてないため。(40歳代女性、多摩地区)

以 上



## 2-10. 東京アメッシュについて〔全体〕

- ◆ 東京アメッシュについては、「利用している（したことがある）」と「知っている（利用したことはない）」を合わせると60%であり、「知らなかった」よりも21ポイント高くなった。
- ◆ 性別で見ると、「利用している（したことがある）」と「知っている（利用したことはない）」を合わせると男性が66%、女性が54%であり、男性が12ポイント高くなった。
- ◆ 年代別では、30歳代が67%で最も高く、20歳代、30歳代が66%、50歳代が62%、60歳代が53%、70歳以上が51%と最も低い結果となった。
- ◆ 地域別では、23区が62%、多摩地区が59%となり23区が3ポイント高い結果となった。

Q16. 東京都下水道局では、お客さまへの情報発信として、降雨情報をリアルタイムで提供し、水防活動や避難行動を支援するために、下水道維持管理用レーダー雨量計システムの「東京アメッシュ」を提供しています。

あなたはこのことについてご存知でしたか？以下の選択肢の中から、該当するものを一つだけお選びください。（単一回答）

図2-10 東京アメッシュについて〔全体〕



## 2-11. 下水道の浸水対策の取組に対する関心〔全体〕

- ◆ 「下水道の浸水対策の取組に対する関心」については、「関心が高まった（非常に関心が高まった+やや関心が高まった）」は95%となった。
- ◆ 性別で見ると、「関心が高まった（非常に関心が高まった+やや関心が高まった）」は男性が95%、女性が92%であり、男性が3ポイント高くなった。
- ◆ 年代別では、60歳代が97%で最も高く、40歳代の96%を除くと、年齢が上がるにつれポイントが高くなった。
- ◆ 地域別では、23区が91%、多摩地区が92%となり多摩地区が1ポイント高い結果となった。

Q17 “今回のアンケートを通じ、下水道の浸水対策の取組に対する関心がどのようになりましたか？以下の中から該当する選択肢を一つだけお答え下さい（単一回答）。

図2-11 下水道の浸水対策の取組に対する関心

